

政治経済学部

教養演習要項

2024年度

明治大学

1 演習とは!?

演習は、ゼミナールともいい、教員の指導の下、学生が自分の研究テーマを設定し、発表・討論を行う授業形式である。構成員は、通常、少人数の学生（10～20名程度）とひとりの教員である。学生は研究の過程において、資料を収集し、意見を集約の上、授業等を通して研究成果を発表し、議論を展開している。教員は適宜、必要なアドバイスをを行い、学生を指導する。こうした過程を経て、自分の意見を反芻しながら研鑽し、研究成果を論文やレポートにまとめることを目的とした授業である。

政治経済学部では、1・2年生が履修する演習形式の授業として、「教養演習」を設けている。各演習は、1・2年生が学問的スキルの基本を学ぶとともに、教養を高めることを目的として開講されている。

2 設置科目

◆科目名・・・教養演習ⅠA・教養演習ⅡA・教養演習ⅠB・教養演習ⅡB・
教養演習ⅠC・教養演習ⅡC

3 科目区分と単位

	学年学期	科目名称	学年学期	科目名称
半期型 (2単位)	1年次春	教養演習ⅠA	1年次秋	教養演習ⅠB
	2年次春	教養演習ⅡA	2年次秋	教養演習ⅡB
通年型 (4単位)	1年次春・秋	教養演習ⅠC		
	2年次春・秋	教養演習ⅡC		

4 履修手続

(1) ガイダンス・選考試験

履修を希望する演習の初回授業に必ず出席すること。初回授業において、ガイダンスを実施し、一部の演習では、選考試験や事前課題を課す。（開講曜日時限は、3頁を参照）

(2) 履修登録

掲示・ガイダンスで担当教員から履修許可を得た学生は、履修登録期間に履修登録をすること。

(3) 「教養演習ⅠB」・「教養演習ⅡB」選抜時期

「教養演習ⅠB」・「教養演習ⅡB」は、秋学期開講のため9月の初回授業時に選抜を行う。

5 留学における取り扱い

教養演習 I C・II Cは通年科目（4単位）のため、春学期もしくは秋学期に留学する学生は履修することができないが、下記の条件を全て満たす場合には、教養演習 I A・II A（春学期2単位）もしくは教養演習 I B・II B（秋学期2単位）としての履修を認める。

- 1 春学期初回授業に出席し、担当教員からの履修許可を得る。
- 2 履修許可を得る際に、春学期もしくは秋学期に留学することを伝え、半期のみの履修として履修許可を得る。
- 3 上記1、2の履修許可を得た後、所定用紙に担当教員の署名をもらい、政治経済学部事務室まで提出する。（所定用紙は、政治経済学部事務室にて配布）

6 2次募集について

2次募集を行う教養演習については、後日 Oh-o! Meiji で通知予定。

教養演習担当者一覧表 (開講曜日・時限順)

授業科目名	単位数	開講期間	対象学年	曜日	時限	担当教員名	演習テーマ	頁
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	1	ヨーク, ジェームズ	ゲームの教育的や社会的可能性について	4
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	2	石川 雅信	家族の変化と新たなライフスタイル	5
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	2	小西 淳文	JICA課題別指針とSDGs (プロジェクトの企画演習)	6
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	2	本間 次彦	『史記』の世界	7
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	3	遠藤 直樹	可換環論	8
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	3	植田 麦	マジックとトリックとロジック	9
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	4	井上 和哉	日韓食文化比較	10
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	月	5	中村 幸一	台湾文化研究	11
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	火	5	堀越 喜晴	芸術と思想(Arts and Thoughts)	12
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	1	高橋 聡	新書・文庫をつうじて人間と社会を知る	13
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	2	奥山 雅之	産業社会研究入門 (産業と地域の分析手法を学ぶ)	14
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	2	ジョージ, ジョニー E.	Language Mysteries	15 ※
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	2	虎岩 直子	「パブリック・アート」をはじめとする視覚文化から考える現代社会	16
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	3	高峰 修	ジェンダー研究入門	17
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	3	津田 太郎	Reading about Current Issues in English-language Media	18
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	3	永江 敦	映画を考え、映画で考える	19
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	3	平山 茂樹	ダンス・身体・映像	20
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	3	森本 陽美	スポーツと法学	21
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	4	石井 千春	日本近現代文学を読む	22
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	4	稲葉 肇	クーン「科学革命の構造」を読む	23
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	4	杉田 弘毅	メディアの仕組みとその役割	24
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	5	後藤 光将	スポーツ政策の立案と提言 ～スポーツを活用した社会課題の解決～	25
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	水	5	針ヶ谷 雅子	環境を考える～ともに生きる社会のつくりかたから	26
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	1	ブルチャー, ミヒヤエル	Topics in Political Thought and the History of Modern Japan	27
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	2	海野 素央	異文化とリーダーシップ	28
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	2	柴崎 文一	プレゼンテーションで世界を変える!～TEDの世界～	29
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	2	陣野 俊史	サッカーを考え尽くす	30
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	3	大森 正之	「文系の環境問題スペシャリスト養成」講座	31
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	3	富澤 成貴	夏目漱石と村上春樹を読む	32
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	4	羽根 次郎	中国革命を考える	33
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	5	齋藤 雅己	Economic Affairs (経済事情)	34
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	木	5	武田 紘平	理論と実践から自身の体を知る	35
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	2	宮崎 イキサン	経済指標のwhat and so what	36
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	3	アベシムヘムディヤンセラゲ, ニロス チャミンダ	Indian Ocean Politics	37
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	3	春日井 淳夫	体力・運動能力・健康度を探る	38
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	3	金子 隆一	人口とライフコースの変化から視る未来社会	39
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	3	デヴェラ, ローナヴェリア	国際異文化交流に向けて英語で日本文化を再考して語る	40 ※
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	3	野口 健	町づくりを考えてみよう	41
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	3	森下 正	ベンチャー・中小企業経営研究	42
教養演習IC・IC	4	通年	1・2	金	5	永川 聡	現代ドイツ政治談議	43
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	月	2	竹下 俊郎	広告コミュニケーションと文化	44
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	火	1	碓 陽子	社会科学スタディーズ入門	45
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	火	1	樋口 収	社会科学スタディーズ入門	46
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	火	2	廣松 悟	『地域』を理解するために	47
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	水	1	兼子 歩	教養としてのジェンダー論を学ぶ	48
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	1	兼子 歩	「アメリカ」を考えるための複数の視点	49
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	2	牛山 久仁彦	地域社会を考える意義と手法を学ぶ	50
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	2	佐久間 寛	映像から学ぶ文化人類学の世界	51
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	水	3	廣部 泉	ブラメリカ (アメリカ合衆国探訪)	52
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	水	4	飯屋 浩子	コミュニケーションと身体性	53
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	水	5	川嶋 周一	社会科学スタディーズ入門	54
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	木	5	森本 陽子	「英語漬け、最新学習法習得とイベントを通して留学に備えよう!!」	55 ※
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	木	5	森本 陽子	「英語漬け、最新学習法習得とイベントを通して留学に備えよう!!」	56 ※
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	金	2	丸川 哲史	帝国論から中国と中国周辺部を考える	57
教養演習IA・IIA	2	春	1・2	金	5	相原 耕作	社会科学スタディーズ入門	58
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	金	5	相原 耕作	社会科学スタディーズ入門	59
教養演習IB・IIB	2	秋	1・2	金	5	山岸 智子	中東の戦争と平和を考える	60

※当該授業の修得単位は、ACE 修了要件に 2 単位を上限に算入することができる。
 次頁に、各演習の関連分野・キーワード・開講曜日時限を記載した一覧表を掲載

演習テーマ: ゲームの教育的や社会的可能性について

授業内容・授業到達目標:

この講義では、以下のことについて考える。

- (主の目的) ゲームの教育的可能性について
- ゲームの種類、世界的客層、影響、文化について学ぶ
- ゲームや遊びの定義と社会的影響
- ゲームと政治経済について

授業外場で自分の作った作品を紹介したり、イベントを開催したりするという参加型学習として展開します。デジタルゲーム作成やプログラミングの授業ではありません。学生が開発したゲームやイベントを使って、他の明大生はもちろん、一般人や社会全体とつながることを目指します。したがって、PBL形式の講義として考えてください。

例として、学生は以下のようなプロジェクトを行います。

- 和泉キャンパスを舞台にしたゲームを作って、イベントを開催する。
- SDGsをテーマにしたゲームを開発する。
- 小学生向けのイベント(キャンパスでの宝探し、ボードゲームを知ろう、など)を開催する。

教科書・使用教材:

教科書: なし

使用教材: ワークシートやオンライン・コンテンツを利用します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容:

- ゲーム歴の高い学生。自分の「ゲームとの付き合い方」についてしっかり考えたことのある学生。
- 授業外でも積極的にプロジェクトに取り組める学生
- 「ゲーム」の種類をスマホゲームやテレビゲームより広く知っておくこと(ボードゲーム、シリアスゲーム、拡張現実ゲームなどについて予習すると良い)。

成績評価方法:

作品評価 50%

授業時課題 30%

発表内容 20%

教員の研究分野…ゲーム学習、教育

募集人員…20名

募集方法…第一回の授業で選抜を行います。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：家族の変化と新たなライフスタイル

授業内容・授業到達目標：

この演習は現代における家族の変化や様々な社会問題について社会学の立場から考察することを目的としています。

また、特定の地域や対象を選定してフィールドワークを行い、収集した資料の分析方法についても指導します。授業では具体的な社会現象を取り上げてディスカッションを行なう予定です。主なテーマは以下の通りです。

- 1 家族生活の変化
- 2 少子高齢化
- 3 晩婚化、未婚化
- 4 恋愛、結婚の変化
- 5 フェミニズムとジェンダー研究
- 6 ドメスティック・バイオレンスと児童虐待
- 7 貧困問題
- 8 学校と教育
- 9 高齢者問題とエイジズム
- 10 格差の拡大

社会学の基本的な概念や理論を理解し、社会的な思考方法と研究方法を修得する。

教科書・使用教材：

教科書は指定せず。参考文献は以下の通り。

上野千鶴子2011年『おひとりさまの老後』文春文庫

島村恭則 2020年『みんなの民俗学—ヴァナキュラーってなんだ』平凡社新書

見田宗介2006年『社会学入門—人間と社会の未来』岩波新書

山田昌弘2019年『結婚不要社会』朝日新書

上記の他、授業の進行に従って参考文献、資料を紹介します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

本演習に合わせて社会学、人類学、心理学関連の科目を履修することが望ましいですが、初学者にもわかりやすく授業を進める予定です。

社会に対する疑問や問題意識をもっている学生の履修を期待しています。

成績評価方法：

課題レポート50%、研究発表、授業での発言、フィールドワークでの参加度50%で総合的に評価します。

教員の研究分野…社会学、家族研究

募集人員…10名程度

募集方法…初回授業における面接

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無・2024年度 投稿予定

演習テーマ：JICA 課題別指針とSDGs (プロジェクトの企画演習)

授業内容・授業到達目標：

日本の政府開発援助を担うJICAが策定している分野ごとの「課題別指針」と国連の開発目標であるSDGsを理解し、それぞれの課題を抱える開発途上国の現状を確認したのちに、どのような援助プロジェクトを策定し、実施すればよいか企画書・ワークシート等をグループ(3名程度)で作成する。また、同様の課題を抱える国内問題についても対応策を考察する。

各グループが作成した企画書・ワークシート等をJICA実施プロジェクトでの企画書・ワークシート等と比較し、評価することにより、各々の企画力を向上させることが目標。

- 1 回目 JICA 課題別指針とSDGsについて
- 2 ～ 4 回目 「基礎教育」SDGs4 (エチオピア)
- 5 ～ 7 回目 「母子保健」SDGs3 (セネガル)
- 8 ～ 10 回目 「貧困削減」SDGs1 (ミャンマー)、(日本)
- 11 ～ 13 回目 「水資源」SDGs7 (セネガル)
- 14 ～ 16 回目 「水産」SDGs14 (セネガル)
- 17 ～ 19 回目 「平和構築」SDGs16 (南スーダン)
- 20 ～ 22 回目 「廃棄物管理」SDGs12 (ブータン)、(日本)
- 23 ～ 25 回目 「都市開発」SDGs11 (セネガル)、(マレーシア)、(日本)
- 26 ～ 28 回目 「ジェンダーと開発」SDGs5 (カンボジア)、(南スーダン)、(日本)

各課題について、概ね3回1セットの演習になります。1回目は当該「課題別指針」とSDGsの理解、2回目は演習課題の提示と企画書の作成、3回目は各自(各グループ)の発表とその評価に加え、JICAの企画書をレビューすることを原則とします。

教科書・使用教材：

JICA「課題別指針」(JICAHPから検索「課題別指針」としてアクセス可能)
事業・プロジェクト - JICA <https://www.jica.go.jp/activities/index.html>

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

復習として、「国際協力機構ホームページ→研究者の方の欄のJICA図書館ポータルサイト→JICA報告書・図書・雑誌」にアクセスし、理解を深めてください。関連情報が数多くあります。

JICA図書館ポータルサイト <https://libportal.jica.go.jp/library/public/Index.html>

成績評価方法：

- JICA 課題別指針及びSDGsの理解度 (30%)
- 企画書・ワークシートの評価 (70%)

教員の研究分野…持続可能な開発 (成長と環境の調和)

開発経済学 (開発経済学の潮流と援助戦略の変遷)

(注) 担当教員はJICA役職員として勤務した29年間、開発途上国支援についてその計画策定と実施監理、評価を担ったほか、外務事務官、外交官 (特命全権大使を含む) としての7年間の勤務経験あり。

募集人員…15名程度

募集方法…抽選

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：『史記』の世界

授業内容・授業到達目標：

紀元前の2世紀から1世紀にかけての中国に生きた一人の歴史家、司馬遷を著者とする『史記』は、いろいろな意味で初めてづくしの著作として知られます。

まずそれは、中国において初めて著者の名が明示された歴史書として世に登場しました。もちろん、中国では、それ以前から多くの歴史書が編纂されていましたが、それらの歴史書はあくまで匿名の史官たちによって記述されるものでした。

次にそれは、世界の歴史がはじまって以来の全歴史を記述することを目指したものでした。それ以前の歴史書が、限られた時間と空間の中での歴史記述を前提としていたこととくらべ、その目標は破格なものでした。そして、そのような目標を実現するために『史記』が創始したのが、新たな歴史記述の形式でした。王朝史としての「本紀」、王朝の制度史としての「書」、群雄史としての「世家」、個人史としての「列伝」が、それにあたります。

もう一つつけくわえるなら、世界の空間的な広がりや歴史的な時間の交差するさまを、「年表」という形式で整理してみせたのも、『史記』の独創でした。

『史記』の登場は、その後の歴史記述に決定的な影響をあたえたという意味で一つの事件ともいべきものでした。なにより、それは、この二千年来、数多くの読者を魅了するテキストでした。その魅力の源泉を探ること、項羽と劉邦の物語にとどまらない『史記』の世界の奥行きを探訪することを、この演習では目指したいと思います。

教科書・使用教材：

随時プリントを配布します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

中国の伝統文化に対し関心をもち、かつ、『史記』についても相応の興味をもっている方であれば、どなたでも歓迎します(『史記』の原文を直接読むわけではないので、その点は、ご心配なく)。

武田泰淳『司馬遷 史記の世界』をできれば一読して(おいて)ください。

毎回の授業には、前回までに配布した資料を再読して臨んでください。

成績評価方法：

授業時発表60%、課題提出40%

教員の研究分野…中国前近代思想

募集人員…10名程度

募集方法…ガイダンスの際に説明します。なお、ガイダンスの際には、志望理由をあらかじめ200字程度にまとめて持参してください(様式は自由でかまいません)。

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 投稿予定

専任講師 遠藤 直樹 月曜3時限(通年)

担当科目：線形代数学I、II、III、IV、解析学I、II、基礎数学、数学概論

演習テーマ：可換環論

授業内容・授業到達目標：

本演習では、高校数学とは少し毛色の異なる数学である「可換環論」を扱う。可換環論とは、数や関数などの集合のように加減乗除という四則のうち加減乗を自由に行うことができる世界の構造を、主にこれら3つの演算を手掛かりに統一的に理解し、解析しようとする数学である。例えば、整数全体から成る集合や有理数全体から成る集合、実数全体から成る集合、複素数全体から成る集合は典型的な可換環である。また、多項式全体の成す集合や閉区間上で定義される実数値連続関数全体の成す集合なども可換環の構造を持つ。このような数学的構造は整数論や解析学では自明に付与されるが、数理科学の世界で様々な場面に共通に現れる「可換環」という構造を抽出し、現象のある部分を統一的に理解し、得られる情報を提供することが可換環論の使命である。可換環論を学べば、負の数と負の数の積が正の数になる事実や多項式に現れる変数や複素数に現れる虚数単位が如何なる存在であるかを理解することができる。

本演習は輪講形式で行う。輪講とは、1つのテキストを複数人のグループで読み解いていく勉強法のこと、数学の世界では標準的な方法である。順番に発表者を決め、当番の人の説明にそれ以外の参加者が質問やコメントをしながら演習を進める。

教科書・使用教材：

後藤四郎 著『可換環論の勘どころ(数学のかんどころ 32)』共立出版

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

必ず予習・復習をすること。特に輪講形式で演習を進めるため、予習は不可欠であり、また発表用のノート作成は必須である。基礎数学を合わせて履修することが望ましく、集合や写像、同値関係に対する理解が必要である。

成績評価方法：

発表内容100%で評価する。

教員の研究分野…代数学

募集人員…10名程度以下

募集方法…初回授業で決定する。希望者多数の場合は面接により選考する。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：マジックとトリックとロジック

授業内容・授業到達目標：

この授業では、マジック(奇術・手品)の実習を通して、ロジカルシンキングを学びます。

と、このように書くと「遊んで単位もらえるなんて、楽(し)そう!」と思われるかもしれませんが、それは大きな勘違いです。あるいは「マジック?手先が器用じゃないと受講できないのかな?」などと考える方もあるかもしれませんが、それも不正確です。

マジックはロジック(論理)のかたまりです。たとえば、「観客の覚えたカードを当てる」といった、テイクワンカードと呼ばれるトリックひとつにしても、複数の手順で構成されています。また、より「面白く」トリックを演じるためには、トリックの外周にロジックを構築する必要があります。

この授業では、そういった「マジックのトリックのロジック」がいかに構成されているかを分析します。具体的には、トリックのロジックを文章化したり図示することで分析を行います。そこで必要とされるのは手先の器用さではなく、対象を客観的に分析する視点です。

教科書・使用教材：

教科書は使用しません。教材は授業内で指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・授業への参加に積極的であること。
- ・半期あたり総授業回数の1/3以上を遅刻または欠席した場合、単位認定の対象としません。

成績評価方法：

- ・発表およびレポート作成……100%

教員の研究分野…日本語学、日本文学

募集人員…10名程度

募集方法…受講希望者が10名を大きく越える場合、初回授業で選抜します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：日韓食文化比較

授業内容・授業到達目標：

このゼミの目標は、日本と韓国の食文化における共通点や相違点を探り、日韓両文化の理解を深めていくことです。食にはその土地の文化がぎっしりと詰まっていますので、ぜひ詳しく調べてみることにチャレンジしてみましょう。

年間計画について記します。調査や発表などは三人一組で行ってまいります。各グループが初めに取り組むことは調査テーマの選定です。食文化というと、食材や料理を思い浮かべますが、食器や作法など食に関わること全般が含まれます。

テーマの一例を紹介しておきます。日本と韓国の主食は米です。しかしながら、韓国で外食をすると、ご飯が盛られてくる器が日本とはだいぶ異なります。ステンレス製で蓋付きの容器です(밥공기：パプコンギ)。しかもだいたいどの店も同じ大きさ。なぜでしょう。関心を持ったかたは「外食と茶碗」というテーマで調べてみるとよいです。面白いことに漢江の奇跡(한강의 기적：ハンガンゲ キジョク)が関係しています。

テーマ決定後は書籍やインターネットを使いテーマについて調べていきます。その結果を前期中に発表してもらうこととなります。このとき、発表内容を事前に告知し、他の学生にも質問などの準備をしてまいります。

夏休み中にはフィールドワークを実施します。その結果と前期に行った調査との同異を後期に発表してもらう予定です。そして最後にテーマに関してグループの結論を政経教養セミナーに執筆し、一年の終了となります。

教科書・使用教材：

教科書は指定しないが、随時推薦していく。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

受け身にならず、積極的にリサーチに取り組んでくれる受講者を希望します。

フィールドワークを実施します。受講者は自分の計画実行力を向上させる意識を強く持ってゼミに参加してください。

成績評価方法：

発表内容(50%)、教養セミナーの執筆内容(50%)。

教員の研究分野…言語学

募集人員…9～12名

募集方法…エントリーシートの提出

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：台湾文化研究

授業内容・授業到達目標：

台湾と聞いて何を考えるだろうか。

タピオカミルクティー(珍珠奶茶)、魯肉飯、親日的、という感じかもしれない。たしかに他国に比べ、総じて親日的なのは事実だが、日本に関心がない、あるいは親日でない台湾人はいくらでもいる(ところが彼らの父母、祖父母の世代は、本省人の場合、日本語を知っていることが多い)。現実の台湾は複雑極まる社会で、日本とはなにもかも真逆である。

まず、歴史的に何層も重なる他民族国家で、言語も、台湾語、客家語、台湾華語、原住民語、「新移民」の言語(インドネシア語など)と多様である。「中国語」は通じるけれども、台湾華語(=「國語」)とは、発音、声調、語彙は、微妙に、というより、かなり違う(そもそも拼音(ローマ字表記)は使われない：ㄊㄞˋㄇㄠˊ = 臺灣、という具合に「注音符號」を使う)。MRT(捷運)の駅名などは、4、5ヶ国語でアナウンスされている。また大学のテキストは英語で書かれたものが多い。知識人はほとんどすべて英語圏に留学している。

「總統」は国民が自ら投票で選出できる。民主主義指数はアジアでトップである。世界だと10位、日本は16位だから、日本よりも民主的なのだ。2020年の總統選挙の投票率は7割、日本と真逆で、若者ほど熱心であり、9割近かった。同性婚もアジアで初、2019年に合法化された。日本の殖民統治が50年あったために、日本文化の影響も受けてはいるが、すべてがガラパゴスの日本とは、なにかから何までまったく違う。

こういう、近くて(往路3時間20分、復路2時間40分)、遠い台湾の文化、社会、歴史、宗教、風習をより深く知り、理解することがこの演習の目的である。箸休め的に、すこし台湾華語の練習をするかもしれない。

下記テキストを用いて議論するが、本書の内容としては：

台湾なのか中華民国なのか
台湾民主化のプロセス
大航海時代に発見された美麗島
日本の植民統治
戒嚴令と台湾海峡危機
民主化と蔣経国
李登輝登場
天然独世代
ひまわり学生運動と蔡英文政権
台湾有事
という感じである。

教科書・使用教材：

野嶋剛『台湾の本音―「隣国」を基礎から理解する』光文社新書。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

台湾に文化的な興味がある人のみを歓迎します。

成績評価方法：

授業中の発言の質、レジュメの内容の質によって評価します。

教員の研究分野…言語学、臺灣文化研究、英語史。

募集人員…10人程度

募集方法…初回の面接による。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：芸術と思想(Arts and Thoughts)

授業内容・授業到達目標：

こんなタイトルを付けたからといって、そんなにアカデミックで堅苦しいゼミにするつもりはありません。

主に人間の情操から生まれる芸術と、理性の産物である思想。これら二つは、時代の空気にはぐくまれながら互いに影響しあい、また次代の空気を醸成していくものです。このゼミでは、毎回原則として一人の受講者が、特に興味を持つ芸術の分野(音楽、絵画、文学、映像など)の中から一つの(場合によっては一軍の)作品を取り上げ、それについて各自の思いを自由に語ってもらいます。そしてそれに基づいて、全員で肩の凝らないトークを転回します。

一見とり留めのない語り合いを積み重ねていく内に、他の受講者の持つ感性や知見に促されながら、いつしか各自の中に歴史について、人間について、そして自分自身についての新たな気づきが芽生えているような、そんなゼミになればと願っています。

教科書・使用教材：

特になし

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

芸術に対して深い興味と愛情を持ち、その思いをみんなに熱く語ることができること。他の人の話を敬意を持って聴き、そこから学ぶ姿勢を持つこと。

成績評価方法：

芸術・思想への愛情の深さ、授業・討論への積極的参加度、想像力の豊かさと好奇心の旺盛さ、着眼点のおもしろさ、及びゼミ論文のできばえから、総合的に判断し評価する

教員の研究分野…言語学、キリスト教文学(特に、C.S.ルイス研究)、障害学

募集人員…10名程度。

募集方法…第1回目の授業で、上記テーマについて、また本ゼミを受講しようと思った動機について、2分程度でスピーチを行う。その際、必ず原稿あるいはメモを用意すること

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 投稿予定

演習テーマ：文庫をつうじて人間と社会を知る

授業内容・授業到達目標：

この演習では、いま静かなブームとなっている読書会を実践します。比較的安価な新書・文庫（または同価格帯の）本を読むことで読書習慣をつくり、大学生活で必要となる学びのスキルを身に着けることが第1の目標です。第2の目標は知的コミュニティの形成です。せっかく大学に入学したのだから、遊び友達だけでなく、知的交流のできる人間関係もつくって卒業してほしいと願っています。本を読んでも、読後に語りあったり、文章を書く場というのは、ほとんどの人がこれまで経験したことがないと思います。具体的には、私と学生の推薦書から交互に本を選び、全員が論点を持ち寄って議論します。このほかプレゼン、レビュー執筆とSNSでの発信なども試みます。取り上げる本のジャンルは、政治、経済、小説、思想、ノンフィクションなど多様でよいです。

予備知識がなくても、人間関係であればだれでも何かしら話せることはあるはずです。そこで、戸谷洋志『友情を哲学する』（光文社新書）または平尾昌宏『人間関係ってどういう関係?』（ちくまプリマー新書）をまず取り上げます。その後読む本は受講者と相談して決めます。そして授業後半では、社会科学的な考え方やセンスを身に着ける本を読んでいきます。筒井敦也『数字のセンスを磨く』（光文社新書）または村上靖彦『客観性の落とし穴』（ちくまプリマー新書）が最初の候補作です。

教科書・使用教材：

なし。書籍を各自購入すること（年間10,000円程度）。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

本を読む時間を必ず確保すること。

成績評価方法：

学期末レポート30%、授業課題30%、議論・プレゼン40%

教員の研究分野…資本主義経済の研究

募集人員…10名程度

募集方法…エントリーシートを初回授業前日の15:00までに提出(WordでA4紙1～2枚程度)。

- ①氏名、②学年・組、③住所・メールアドレス(PC)、④出身校、⑤サークル・バイト(予定でもよい)、⑥自己紹介:性格・趣味・特技、高校または大学でどういうことをやってきたか、大学でどういうことを学んでみたいかなど。⑦おすすめの本とその概要、気に入った文章など。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：産業社会研究入門（産業と地域の分析手法を学ぶ）

授業内容・授業到達目標：

1. 授業内容

ニーズの多様化、グローバル化が進展するなかで、産業や地域のあり方も大きく変わろうとしている。この演習は、こうした産業と地域との関わりや、産業や地域にまつわる様々な問題を考えていく。

・前半(春学期)：「業界分析」

産業は、その種類(業種)によっても特性が大きく異なる。少し早いかもしれないが、就職活動にも有効な業界分析手法を理論に基づき習得する。その後、興味のある業種を選び、習得した手法を用いて分析する。

学生からの発表例：自動車業界、生命保険業界、食品業界、医薬品業界、ファッション業界など

・後半(秋学期)：「地域産業分析」

世界、日本、そして東京にも様々な産業がある。まず、こうした地域産業の考察手法を習得する。その後、興味のある東京およびその周辺部の産業集積(特定の産業が集中しているところ)を選び、習得した手法を用いて分析し、その分析結果をプレゼンテーションする。また、その内容を政経教養セミナーに投稿する。

学生からの発表例：神保町の古書店、新木場の木材倉庫、清澄白河のコーヒーショップ、下北沢の古着店・劇場、丸の内の金融街など

2. 到達目標

産業や地域の構造を様々な角度から捉え、産業・地域に関連する教養を高め、将来の就職先などでの確かな市場戦略、競争戦略を立案できる基礎能力を身につける。企業、産業、地域、経済について幅広い切り口と考え方を備え、この演習が社会で活躍できる人材の第一歩となることを期待する。あわせて、3年生からの専門演習で必要とされるプレゼンテーション能力、論文作成スキルを身につける。

教科書・使用教材：

教科書は使用しない。配布するレジュメ等によってすすめていく。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

事前に、直前回の授業中に示す「予習すべき事項」あるいは「事前課題」について調べておくこと。復習として、同じく授業中に示す「復習課題」を実施すること。また、産業に対する問題意識や提言力を身につけるため、日頃から新聞の経済・産業関連記事に接してほしい。

成績評価方法：

演習への貢献度50%、中間レポート20%、期末レポート30%

教員の研究分野…地域産業論、繊維・ファッション産業、地域産業のグローバル化

募集人員…10~20名程度

募集方法…希望者が多い場合には、初回の面談、グループワークまたはエントリーシート等によって選抜する。

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 投稿予定

演習テーマ：Language Mysteries

授業内容・授業到達目標：

Language is an important tool we all use in our daily lives. We will go on a roundabout tour of language concepts through the lens of sociolinguistics, and consider questions such as: What is the relationship between culture and language? Do Japanese and English speakers really communicate differently? What happens if a child begins life without language? How do first language and second language acquisition differ? How does an artificial language differ from a natural language?

We will use various media to explore language. You will have discussions in groups and as a class. You will lead the class on linguistic related topics of your choice. You will learn Toki Pona.

The primary aims of this course are for you to:

1. Improve your ability to comprehend English texts
2. Think critically about various social issues
3. Discuss and exchange ideas with your peers

教科書・使用教材：

No text. Materials distributed to the class.

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

Applicants should have the confidence to speak or read in English. The class will be decided based on a self-introduction and a short writing response.

応募者は、英語で話すまたは読む自信を持っている必要があります。クラスは、自己紹介と短いライティング応答に基づいて決定されます。

(留学生の場合、特定の条件を満たす場合には、教養演習 A/B として1学期間のみの履修が認められます。詳細については政経学部の事務室までお問い合わせください。)

成績評価方法：

Participation 30% Quizzes 20% Short writing 20% Leading class discussion 30%

This class can be taken for 2 ACE credits.

2単位分については「ACE 修了 要件」の一部として読み替え可能とする。

教員の研究分野…社会言語学

募集人員…12人

募集方法…初回のガイダンス時に決定

政経教養セミナー投稿 2022年度 未開講・2023年度 無

演習テーマ:「パブリック・アート」をはじめとする視覚文化から考える現代社会

授業内容・授業到達目標:

“Seeing is Believing.”という諺があるように、目に見えるものがわたしたちのものの考え方に及ぼす影響は大きい。このゼミでは「パブリック・アート」をはじめとする共同体の中の視覚的なものを通して、わたしたちの生きる生活空間がどのように創造・操作されているか、ということ考察することを目的とします。

「パブリック・アート」とは一般に、ある特定の意義や目的のために公共空間に設置・演出される芸術作品であり、あらゆる媒体をもちうる、とされます。実例として、上野公園の『西郷隆盛の銅像』など、共同体に貢献した人物の銅像や戦争犠牲者追悼の記念碑などがすぐに思い浮かぶように、「パブリック・アート」は特定の時代や場所、そして公の場所を管理管轄する政治権力と密接に結びついてきました。共同体支配権力との強い関係は旧ソヴィエトや共産主義諸国に見られる記念碑などに明確に現れます。政治的に開かれてセンサーシップが緩やかな社会においても、公の空間に展開される「パブリック・アート」は、それが創造される時代の精神を色濃く反映させています。例えばロンドンの中心地トラファルガー広場に一時設置されていた身体的に不自由な女性の銅像は、言うまでもなく従来の「美」の定義に挑戦し、不自由を持つものへの差別を取り去る準備ができてきた理想的現代社会を象徴するものでした。

このゼミでは、「偉人像」などから近年次第に共同体に置ける意味を変えてきた「パブリック・アート」という「芸術作品」の一領域にとどまらず、道路標識などのサインや、以下に説明するような意味で落書きなども含めて、共同体に積極的・消極的に影響を与えている視覚文化の具体的な現れを観察・考察していきます。

「落書き」や、共同体に「正式」に認められた「パブリック・アート」に対抗的に出現する「ゲリラ・アート」も、「反権力」へのアンチテーゼとしての「アート」としてだけでなく、その存在が短時間であっても可能である社会を含意するという意味で考察する価値のある表現と言えるのです。

ゼミ参加者には前期・後期一度ずつ、特定の身近な、あるいは知識として知っている具体的な視覚文化事象・事物を選んで紹介・発表・分析していただきます。最終的には『政経教養セミナー』に掲載する論文を作成します。

教科書・使用教材:

随時指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容:

身近な、また、様々なメディアを通してわたしたちが絶えずさらされている「目に見えるもの」に注意しながら暮らしてみてください。

成績評価方法:

出席20%、プレゼンテーションとディスカッション50%、『政経教養セミナー』への取り組み30%

教員の研究分野…英国・アイルランドの文化、視覚文化と社会

募集人員…10～15名

募集方法…ガイダンス時に説明します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

教授 高峰 修 水曜3時限(通年)

担当科目：運動学演習、ジェンダー論Ⅰ、身体文化論、専門演習

演習テーマ：ジェンダー研究入門

授業内容・授業到達目標：

このゼミではジェンダー研究やフェミニズムの基礎知識について理解を深め、それに基づき身の周りや社会で起こっている事象を解釈できるようになることを目標とします。そのためにジェンダーやセクシュアリティ、あるいはフェミニズムについて読み、調べ、考え、生産するという一連のアカデミックな作業を体験します。

ジェンダーやフェミニズムという言葉は最近でこそ日常的に使われるようになりましたが、しかしその理解は表層的なものであったり、場合によっては勘違いであったりします。それらについての理解を深めることは、政治経済学を学ぶ学生としての今後の学業、また一人の成人としての今後の人生に大いに役立つと信じています。

原則として「ジェンダー論Ⅰ」を履修していること(すでに単位取得済み、あるいは2024年度に履修中)を前提にゼミを展開します。いずれも適わない場合は2024年度春学期の授業動画を各自で視聴するという条件で受講を受け付けます。春学期は基本文献の輪読ならびに作業、ディベート、映画鑑賞を通じてジェンダー論やフェミニズムの基礎知識を身につけます。秋学期には各自でテーマを設定し、それについてある程度まとまった分量のゼミ論文を作成します。いずれもゼミ時間以外に各自で、あるいはグループで作業を行う必要があります。

教科書・使用教材：

『アクティブラーニングで学ぶジェンダー』青野篤子編著(ミネルヴァ書房, 2016年)
2,800円+税

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

原則として「ジェンダー論Ⅰ」をすでに単位取得済み、あるいは2024年度春学期に履修中であることを前提にゼミを展開します。いずれも適わない場合は2024年度春学期の授業動画を各自で視聴するという条件で受講を受け付けます。春学期と秋学期いずれの作業もゼミ時間以外に各自で、あるいはグループで行う必要があります。受講生との相談によりゼミ合宿を行う場合があります。

成績評価方法：

ゼミ活動への参加および貢献度40%、課題達成度20%、ゼミ論文の評価40%

教員の研究分野…体育・スポーツ社会学、ジェンダー研究

募集人員…最大12名

募集方法…エントリーシートとレポート、面接による(応募人数によって変更の可能性あり)

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無、2024年度 投稿予定

演習テーマ：Reading about Current Issues in English-language Media

授業内容・授業到達目標：

In this course, we will study political and social issues facing Japan, East Asia, and the world by reading a selection of English-language news articles. Some of these articles will come from *The Japan Times*, one of the oldest and most well-established media organizations in Japan. Students will be asked to do close reading and reflection on the articles, research background information, and discuss the articles both in terms of their content and their use of the English language. Students will take turns selecting their own article, writing an analytical outline, doing a presentation, and leading a discussion.

The goals of this course include:

- Study and discuss complex social and political issues in Japan, East Asia, and the world.
- Develop skills in advanced reading, writing, and discussion in English.
- Acquire valuable experience in research, group work, and presentation for use in academic and professional life

教科書・使用教材：

There is no required textbook. Assigned readings will be announced in class and provided on Oh-o! Meiji.

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

The following types of students are encouraged to attend:

- (1) students with a strong interest in politics and current events in Japan and the world
- (2) students with a desire to improve their reading, writing, and speaking skills in English
- (3) students interested in working with and exchanging ideas with other students
- (4) students willing to actively learn and participate in a friendly, respectful environment

成績評価方法：

Class Participation: 50%

Reading Memos: 30%

Reports/Presentations: 20%

教員の研究分野…Modern and contemporary Japanese political history

募集人員…Up to fifteen students

募集方法…If there are more than fifteen who want to attend, attendees will be selected by a questionnaire or interviews in the first class.

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：映画を考え、映画で考える

授業内容・授業到達目標：

映画を見ることは、面白くて楽しいことであるばかりか、いろいろな意味でとても勉強にもなる。人生や歴史、人々の暮らしや喜怒哀楽が、具体的な映像を通じて、直接、見る者に訴えかけてくるからである。

ただ、映画を見るには、一種の「文法」みたいなものがある、それを心得て見ると、一層、作品を深く理解することができる。

初めのうちは、古典的な名作を見ることで、映画の見方と基本的な知識を身に着ける。

その後は、自然・人間・青春・家族・戦争などのテーマに即した作品を見て発表や議論をしながら展開していきたい。

週末や夏合宿では、作品所縁(ゆかり)の場所を散策するのもよいだろう。

年間、最低、100本の映画作品を見ることにしよう。

以下が、最初に見るべき「古典的名作12作」(製作年代順)である。

『荒野の決闘』(1946年・米・J.フォード監督) / 『東京物語』(1953年・小津安二郎監督) / 『七人の侍』(1954年・黒澤明監督) / 『山椒大夫』(1954年・溝口健二監督) / 『ゴジラ』(1954年・本多猪四郎監督) / 『道』(1954年・伊・フェリーニ監督) / 『二十四の瞳』(1954年・木下恵介監督) / 『大人は判ってくれない』(1959年・仏・トリュフォー監督) / 『太陽がいっぱい』(1960年・仏・R.クレマン監督) / 『用心棒』(1961年・黒澤明監督) / 『破戒』(1962年・市川崑監督) / 『男はつらいよ』(1969年・山田洋次監督)

教科書・使用教材：

映像教材については、できるだけ、無料で見られるように手配するが、それ以外は、大学のライブラリーやネットレンタルを活用する。

参考文献：『黒澤明が選んだ100本の映画』(文春新書)。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

可能であれば、「国際地域研究基礎論」(水曜・2限)を履修してほしい。

成績評価方法：

授業への参加度(発表など)50%、レポート50%。

教員の研究分野…英文学

募集人員…12名程度

募集方法…最初の授業で選考する(筆記試験)

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 投稿予定

演習テーマ：ダンス・身体・映像

授業内容・授業到達目標：

生まれてこのかた踊ったことがない、という人はまずいないでしょう。高校時代は踊っていた人も多いようです。大学に入ったのでダンスはもう卒業、と思う人、卒業するのは少し早すぎるかもしれません。まだ見たことがないダンスの世界が広がっています。「こんなことができるのか!」と驚かされるものから、「これもダンスなの?」といぶかしく思うものまで多様な世界です。

このゼミの目標は、さまざまなダンスを見て、興味の幅を広げていくことです。とはいえさまざまなダンスを見尽くすことはできないので、今年は教科書で取り上げられているダンスを中心に見る予定です。

さらにダンサーをゲストに招いて、体を動かす予定です。昨年度は長谷川暢さん(コンテンポラリーダンス・太鼓奏者)、山本光洋さん(パントマイム)にワークショップを開いていただきました。

教科書・使用教材：

『ダンスは冒険である』石井達朗著 (論創社 2,200円)

そのほか様々な映像を用いて、様々なダンスに触れてもらいます。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

全くダンスを見たことがない、踊ったことがない、という人を歓迎しています。

準備学習として、教科書の内容や、それに登場する人物や用語について調べて、発表してもらいます。

また参加者全員で、各学期に各1回ずつダンスの公演を見に行く予定です。春学期には6/15(土)17時から横浜(日本大通り)での公演を観に行きます。これらに出席できない人は、今回のゼミには参加することができません。

また各学期にそれぞれ少なくとも1回、自分でプロのダンスの公演を探して見に行き、さらにレポートを書いてもらいます。

成績評価方法：

発表内容30%、学期末レポート30%、演習への貢献度40%

また指定されたダンスの公演を見に行くのが、単位修得の条件です。ダンスの公演は週末(金曜夜、土、日)に開かれることが多いので注意して下さい。

教員の研究分野…ヘーゲルなど18,9世紀のドイツの哲学

募集人員…8名程度

募集方法…希望者が多いようであれば、自己紹介とこの演習に対して希望することを書いてもらって、それを参考に履修者を決めます。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：スポーツと法学

授業内容・授業到達目標：

スポーツは健康の維持・増進、健全な精神の育成のため社会的に認められた有意義な活動である。しかし、万全の注意を払っても事故の発生する場合もある。このような事故の法的処遇として、刑事上は違法性が阻却され罪に問われないことが多い。一方、民事上は損害賠償が問題となるが、実際には「危険の引受」・「過失相殺」法理などを用いて加害者・被害者の行為と責任のバランスを考えた上での解決が図られる。

スポーツ界固有の法的紛争解決機関として、1984年に国際オリンピック委員会によりスポーツ仲裁裁判所(CAS: Court of Arbitration for Sport)が設立された。オリンピック選手や理事の選考基準、ドーピング問題等をスポーツ界で審理し解決することを目的とした一審制の仲裁機関である。

国内においては、2003年に日本スポーツ仲裁機構が設立され、CASを用いるより時間・労力・金銭を節約しつつ問題解決が図れるようになった。

東京オリンピック招致をめぐる誘致の関係者、電通や博報堂のスポーツビジネスの腐敗が刑事事件となっている。スポーツ競技は巨万の富を生み出すが故に生じる贈収賄や詐欺等の犯罪である。本ゼミにおいては、国内外の提訴された様々な事案から、訴えの理由や係争点、判決・仲裁内容等を検討したい。また、スポーツに関わる諸問題のうち、国家の刑罰権を用いる必要があるほどの深刻な犯罪行為についても検討したい。

教科書・使用教材：

道垣内正人・早川吉尚/編著『スポーツ法への招待』2011年

静岡県弁護士会著『裁判例からわかる スポーツ事故の法律実務』2020年等

その他、適宜必要な論文を紹介します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

スポーツ法学は、近年とくに注目されてはいますが、その範囲は多岐にわたり色々な学問分野と関係があります。ですから、独創性と積極性のある学生を求めます。専門的知識よりも好奇心と広い視野が必要とされます。日頃からの準備としては、スポーツに関わる紛争に加えて、日常の裁判記事や社会問題を注意深く見ていく態度を持ちましょう。

成績評価方法：

演習への貢献度50%、発表内容30%、授業時課題20%

教員の研究分野…法律

募集人員…15~20名

募集方法…入室希望者が多い場合は、ガイダンス出席者の中から選考

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：日本近現代文学を読む

授業内容・授業到達目標：

明治から現代までの短編・中編小説を読む。予定している作家は、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、太宰治、内田百閒、三島由紀夫、吉行淳之介、村上春樹など。作品の時代背景、作家の生涯なども考えながら読んでゆきたい。

授業の進め方は、概ね、以下の通り。

- 1、作品の感想のレポート(小論文)を各自、読み上げる。
- 2、意見を述べ合う。
- 3、石井が解説する。
- 4、作品を精読する。
- 5、石井の添削と授業中の精読を基に、レポートを書き直して、再提出する。

なお、秋学期には、数コマ発表授業を行う。詳細はガイダンスで述べる。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

文章修養がこの授業の大事な目的の一つなので、課題のレポートをこなせる学生のみ希望する。書けずに、しばしば欠席する学生は評価しない。

成績評価方法：

小論と発表70%

授業参加度30%

なお政経教養セミナー投稿者は小論の評価に加算する。

教員の研究分野…日本の近代

募集人員…7名前後

募集方法…簡単なレポート(人数オーバーの場合のみ)

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 無

演習テーマ：クーン『科学革命の構造』を読む

授業内容・授業到達目標：

この演習では読書会をします。大学の(人文系の)世界で読書会と呼ばれる集まりでは、対象となる本にあらかじめ目を通すことは当然前提した上で、議論を交わしつつその本の内容を読み込み、理解し、あるいは不明な点を言語化し、ときには別の文献をも参照します。また、その本の内容そのものだけではなく、現代の時代状況などの参加者の関心から考察を広げたり、論文の発想を得たりすることもあるでしょう。

この演習(あるいは読書会)では、アメリカの科学史家トマス・クーン(1922-1996)の『科学革命の構造』(初版1962年)を読みます。この本は「パラダイム」という言葉を人口に膾炙させ、現代の科学史および科学技術社会論の方向性を定めたとも言える科学史の古典ですが、刊行当時からさまざまな批判を呼び、クーンもそれに応じて改訂を行いました。今回は、クーンの死後、科学哲学者イアン・ハッキングによる序文が付されて出版された第4版(原書2012年、邦訳2023年)を扱います。

参加者には、ただ教室に存在するだけでなく、口や手を動かしてもらいます。毎週の作業は、(1)事前にその回で読み進める箇所を決めておき、(2)担当者がレジュメをもとにその箇所の内容の解説をするとともに、(3)参加者全員で不明な点について調査・議論する、というものです。参加者にはこのような作業を通じて、レジュメの作成や辞事典類の調査といった基本的な調査研究のテクニックを身に付けるとともに、読書会というスタイルになじんでももらいます。また、一般に「古典」とされる本は難解なことが多いですが、そのような本に「かじりつく」経験をしてもらいます。

教科書・使用教材：

トマス・S・クーン『新版 科学革命の構造』青木薫訳、みすず書房、2023年。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

指定された範囲を予習し、その内容を噛み砕いて自分なりに説明できるように準備しておくこと。また、演習中に積極的に発言すること。「本を読む」ということは、スポーツや音楽と同様にひとつのテクニックであり、その習得のためには自分で(失敗を繰り返しながら)手と口を動かすしかありません。

成績評価方法：

毎回の演習への貢献度(100%)により評価します。貢献とは演習中の発表・発言を指します。

教員の研究分野…科学史

募集人員…10名程度

募集方法…希望者多数の場合には初回授業時に抽選を行います。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：メディアの仕組みとその役割

授業内容・授業到達目標：

日本および海外のメディア組織の概要と、インターネット・AI時代への急速な移行に伴うメディアの課題について研究します。日本の新聞社、テレビ局の歴史と世論形成における影響力について検討し日本の報道機関の取材に関する課題を調べます。悪質なナショナリズムやポピュリズム、政治の劣化もメディアに部分的に責任があると指摘されていますが、このような批判の妥当性を検証し、健全な民主主義社会のためにメディアが果たすべき役割について議論します。またウクライナ戦争やガザ戦争とメディアの関係について研究します。

授業到達目標：

- 1 日本のマスメディアについて総合的に理解する。
- 2 メディアと世論の関係について知る。
- 3 インターネット・AI時代における主要報道機関の役割について学ぶ。

教科書・使用教材：

特になし。適宜必要な資料を授業で提示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

自分で関心を持ったテーマを深く調べ、発表するよう心掛けてください。授業中は積極的に発言し自分の意見を述べてください。

成績評価方法：

学期末発表50%、授業時の発言50%

教員の研究分野…メディア論、国際政治、アメリカ研究、中東研究、経済安全保障
募集人員…10人程度
募集方法…応募者が多い場合は選抜試験をします
政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：スポーツ政策の立案と提言 ～スポーツを活用した社会課題の解決～

授業内容・授業到達目標：

政策提言とは、政府や地方公共団体などの政策決定者に対し、ある課題への取り組みやその関連政策、思考、事業実施方法や変化を支持するよう推進し、働きかけ、提言を行う活動です。

2011年に制定されたスポーツ基本法の前文では、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と謳い、また、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利である」と宣言しています。つまり、基本的人権として「スポーツ権」が定義されています。健康推進、障害者福祉、高齢者福祉、ジェンダー平等、地域活性などの様々な社会課題に対して、スポーツが利活用されています。また、今後もスポーツは、新たな可能性を秘めています。

本授業では、一般的な社会課題に着目して、その解決のためにスポーツを利活用する政策を立案します。また、希望者は大学生対象のスポーツ政策提言インカレコンペに出場します。

春季休業中(2泊3日)には、スノースポーツ実践のためのゼミ合宿を行います。本授業を受講することにより、幅広いスポーツ技術の向上、他者とのコミュニケーション能力、社会史の知識、プレゼンテーション能力などを養うことができます。また、希望者にはオリパラ関連施設、企業、テレビ局の見学やフィールドワークを実施します。

教科書・使用教材：

後藤光将編(2020)『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』岩波書店

高峰修編(2020)『夢と欲望のオリンピック その多様な姿』成文堂

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

水曜5限の授業だけではなく、フィールドワークなどの授業外での活動にも積極的に参加することを望みます。受講にあたって、特別な準備学習の必要はありませんが、スポーツ政策立案に関連する時事的な話題の収集に努めてください。

成績評価方法：

授業への取り組み度合い50%、授業時課題30%、発表内容20%

※1/31-2/2(予定)のスノースポーツ合宿への参加は任意

教員の研究分野…体育・スポーツ史、スポーツ人類学、オリンピック教育

募集人員…20名程度

募集方法…希望者多数の場合はスポーツ時事問題に関する筆記試験を実施します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：環境を考える ～ともに生きる社会のつくりかた～

授業内容・授業到達目標：

「環境」とは、「主体(生物や人間)と関わりあうもの、主体に影響を与えるもの」の総称です。この授業では、自分を取り巻く環境について、さまざまな視点から考えていきます。

今、気候変動などの環境問題が深刻化していることは周知の事実です。まずは、現状を知り、自分にはどのような考えがあり、どのような行動をしていくのかを、対話やワークを通して探求していきます。加えて、植物を活用したクラフトや、キャンプなどの野外活動を通して、自然環境の素晴らしさや複雑さに触れ、環境に対する総合的な理解を深めます。

また、多様性を大切にされた社会(≒環境)も求められています。年齢や性別、障害、貧困などによる格差を解消し、ひとりひとりが自分の力を発揮できる社会こそ、持続可能な発展をとげるといわれています。まず「インクルーシブ」や「ユニバーサル」など、関連する概念について学習し、日本やいくつかの国の事例に触れ、自分なりの理想や目標を考えていきます。特にこの授業では、ろう・難聴の人たちとスポーツや野外活動を通して交流し、単に支援する・されるという関係ではなく、互いの違いを理解し、尊重しながら共に生きる感覚を体験します。そのために、彼らの言語である手話も学びます。希望者は夏休みに、ろう・難聴児を対象にした長期キャンプ(静岡県 朝霧高原)にスタッフとして参加できます。

これらの活動から、環境やそれに関わる課題に気づき、関心を持ち、必要な知識、技能とともに、自分なりに取り組む意欲、実行力を身につけることを目標とします。

教科書・使用教材：

必要に応じて資料を配布します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ①授業内では、ご自身の考えや経験について受講者や教員と対話する機会が多くあります。受講するにあたり、まず自身を取り巻く「環境」について考えてみましょう。また、より深く探求するために、書籍やインターネットを活用して、関連する事柄について学びましょう。
- ②野外や運動施設での身体的な活動を実施することがあります。規則正しい生活や食事・睡眠などに気を配り、健康を維持し、活力をもって参加してください。

成績評価方法：

授業内の課題への取り組み・積極性 50%

授業到達目標の達成度・理解度(授業内レポートおよび期末レポート) 30%

授業前後の研究(予習・復習) 20%

教員の研究分野…野外教育、インクルーシブ教育、フィギュアスケート

募集人員…20人

募集方法…定員を超えた場合、小論文の出来栄で選抜します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：Topics in Political Thought and the History of Modern Japan

授業内容・授業到達目標：

This course will help students develop field-specific English reading and writing skills through joint readings and discussion of scholarly texts.

A main focus of this course will be English-language discussions of the meaning of “modern Japan” – as reflected especially in interpretations of the “Meiji Restoration” as an epochal turning point, the “Meiji Constitution” of 1889, and the postwar “symbol monarchy.”

Readings on these topics will include passages from English-language textbooks and research, as well as texts introducing comparative viewpoints on “modern revolutions” and “modern states.”

As a rule, readings chosen will be central enough to the larger debate to be available in Japanese translation as well. Students less assured of their English reading skills are welcome to consult available Japanese translations on the way, enhancing their active vocabularies and familiarity with English expressions in this fashion. Classroom discussion, however, will be in English, and students will be required to submit English resumes of texts read on a regular basis.

Students may also choose to embark on individual study or research projects in the course of the academic year on subjects related to the themes of the course as a whole. You could, for example, opt to study a particular political thinker or actor more closely, or engage with a concept or issue that has sparked your interest. But this is an option, not a requirement.

教科書・使用教材：

There is no textbook for this class. Joint readings will be distributed in class. Students who want to engage in individual study or research projects will learn how to find and work with library resources.

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

Students are required to prepare joint readings (consulting existing Japanese translations as needed) and participate in classroom discussion. Students will submit English-language resumes on joint readings on a regular basis (or report on results of individual study or research).

成績評価方法：

Class participation: 30%

Resumes on joint readings (or reports on individual study projects): 70%

教員の研究分野…History of Political Thought, History of Political and Social Concepts,
Modern Japanese History

募集人員…10-12 students.

募集方法…If the number of applicants is higher, students will be selected for admission through preliminary interviews.

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

教授 海野 素央 木曜2時限(通年)

担当科目：異文化理解とコミュニケーション、異文化摩擦とコミュニケーション、
異文化ビジネス概論、実践異文化ビジネス論、専門演習

演習テーマ：異文化とリーダーシップ

授業内容・授業到達目標：

近年、国際化の著しい進展に伴う日本企業の海外進出および外資系企業の日本進出によって、文化的背景の異なる人々と協働したり、そうした人々を管理する、あるいは、彼らの下で仕事をする機会が増加している。こうしたビジネス環境の変化に、従来のリーダーシップ論では対応しきれない事態が生じてきている。21世紀に、グローバルな舞台で管理者を目指す学生諸君には、今、新しいリーダーシップが求められている。

本ゼミでは、異文化環境におけるリーダーシップを研究テーマとして取り上げ、学生諸君が、新しいリーダーシップつまり講師が提示している異文化対応型リーダーシップを理解し、そのKSAA(知識・スキル・態度・能力)の基礎を習得することを目的として、事例、小グループごとのディスカッション、チームプロジェクト、シミュレーション(疑似体験)、プレゼンテーションを中心に進めていく。年2回、ディベート大会も実施している。その意味では、極めて実践的な演習である。

教科書・使用教材：

海野素央『オバマ再選の内幕—オバマ陣営を支えた日本人が語る選挙戦略』、海野素央『リスクと回復力—東京電力福島第一原発事故から学ぶリーダーシップ』、海野素央『トヨタ公聴会から学ぶ異文化コミュニケーション』(いずれも同友館) L.A. サモバー、R.E.ポーター、N.C.ジェイン著 西田司他訳(1993)『異文化間コミュニケーション入門』、W.B.グディカンスト著 ICC 研究会訳(1993)『異文化に橋を架ける—効果的なコミュニケーション』(いずれも聖文社)

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

モチベーションの高い学生を求む。

成績評価方法：

プレゼンテーション、試験、Discussion Question、レポート、授業態度

教員の研究分野…2024年米大統領選挙、2022年米中間選挙、2020年米大統領選挙、バイデン米大統領とトランプ前大統領のリーダーシップ/コミュニケーションスタイル、2018年米中間選挙、2016年米大統領選挙、オバマ元米大統領のリーダーシップ/コミュニケーションスタイル、トヨタ公聴会における異文化コミュニケーション、異文化交渉スタイル(日本・米国)、異文化コラボレーション、異文化ファシリテーション、異文化コーチング、異文化メンタリング

募集人員…7～8名

募集方法…レポート：テーマ「国際人とは」。1000字程度。横書き。名前、学年、組、番号、出身地を明記。身上書(ガイダンスで配布)。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：プレゼンテーションで世界を変える！～TEDの世界～

授業内容・授業到達目標：

プレゼンテーション・スキルは、在学中にも、また社会に出てからも、現代では必須の能力だと言えます。今や実社会では、その能力が一生を決定すると言ってよいほど重要な資質にさえなっています。

このゼミでは、TED で公開されている世界的なプレゼンテーションの分析と学習を通じて、各自のプレゼンテーション・スキルの向上をはかるとともに、超一流のプレゼンテーションによって表現されている最先端の科学から、芸術や人生の意味に至るまで、その内容についても理解を深めたいと思います。

TED (Technology, Entertainment, Design) は、毎年一回開催される大規模な世界大会のほか、各地でも活発なプレゼンテーションの会が開かれて、その模様をインターネット上に公開している非営利団体です。

TED のステージには、ビル・ゲイツやアル・ゴアなどの著名な人物のほか、文化、芸術、科学、エンターテインメントなど、あらゆる分野から「超一流」のプレゼンターが登場し、10分から20分のプレゼンテーションを行います。聴衆も、ジャーナリストから学術関係者まで極めて高いレベルの人々ばかりですので、TED の会場で聴衆を引き付けることは、至難の業だとも言われています。そのためTED のプレゼンテーションは、どれも非常に説得力があり、「世界を変える」ほどのインパクトを持つものさえあります。

TEDで行われるプレゼンテーションは英語ですが、TED のインターネットサイトでは日本語の字幕も完備しているので、英語に自信のない人でも問題ありません。また、字幕付きであっても、一年を通じて大量の英語プレゼンテーションを見ることになりますので、副次的にリスニング能力の向上にもつながります。

授業では、毎回、各担当者が予めTED のサイトから選んでおいたプレゼンテーションの内容を解説することにより、自分自身のプレゼンテーション能力の向上を図ります。

参考URL：<http://shibasaki.fine.to/ted/>

教科書・使用教材：

使用しません。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

PC がなくても授業の準備は可能ですが、所有していないと何かと不便です。出来るだけ自分専用のPC を準備するようにしましょう。初回の授業で、ビデオのダウンロード方法、字幕の加工方法などを解説します。

成績評価方法：

授業時でのプレゼンテーション60%、ディスカッションの貢献度30%、レポート10%

教員の研究分野…環境思想・科学技術社会論・応用倫理学

募集人員…10名

募集方法…Oh-o! Meijiのクラスウェブ・アンケートコーナーに掲示されている「エントリーフォーム」に必要事項を入力してください。入力には、クラスウェブ上で、この授業を「仮登録」することが必要です。締め切りはガイダンス当日の午後5時です。新1年生でOh-o! Meijiの利用方法がよく分からない場合は、「志望動機」(300字程度)と「自己PR」(200字程度)を予め考えておくと、後の入力が容易です。エントリー方法はガイダンスで説明します。

政経教養セミナー投稿 2022年度 無・2023年度 投稿予定

演習テーマ：サッカーを考え尽くす

授業内容・授業到達目標：

サッカーを考えるとどのようなことか。たぶんこのゼミを希望する人の大半は高校まで、あるいは中学までサッカーを実際にプレーしてきた人が多いだろう。サッカーをプレーする以外に、サッカーについて考える道は無数にある。サッカーについて考えることはそのまま、社会について考えることにもつながっている。ネガティブな面で言えば、サッカー場では人種差別の火が消えたことがない。それはなぜなのか、なくすためにどんな努力が必要か、など考えるべきことは山ほどある。あるいはJリーグにしか関心がない人もいるだろう。まったくそれで構わない。プレミア・リーグばかり観ている人もいるだろう。それでまったく構わない。アーセナルしか興味がない、という人もいるだろう。それでOKだ。ダメなのは、サッカーを愛しているのに、性差別主義者だったり、無意識のうちに誰かを虐げる側に加担していることだ。そのためには、サッカーをいろんな角度から観る必要があると思う。

今年EUROが行われる。例年はEUROに向けて、基礎的な発表とかするのだが、今年は、学生と相談しようと考えている。ヨーロッパ選手権はたかが一つの半島の出来事じゃないか、という学生がいれば、その意見も尊重したい。春学期はしかし、EURO 2024をメインに動くつもりだ。秋学期は、各個人の発表がメインとなる予定。

教科書・使用教材：

特になし。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

初回に希望者に集まってもらいます。多すぎる場合には選抜しますが、この数年、だいたい20名前後なので、選抜をせずに済んでいます

成績評価方法：

春学期と秋学期、それぞれ、一回ずつ、各自に発表してもらいます。内容は話し合いで決めます。

教員の研究分野…フランス文化論

募集人員…20人前後

募集方法…希望者が多ければ、小論文を書いてもらって選抜します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：「文系の環境問題スペシャリスト養成」講座

授業内容・授業到達目標：

環境エコノミスト、環境ジャーナリスト、環境コンサルタント、環境行政官、環境政治家など、環境問題の解決を目指すスペシャリストになるために必要と思われる基本的な文献や映像などを批判的に読み解くための知的なトレーニングの場を提供したい。

受講者には、環境問題に関連する初歩的な文献や映像などを年間5作品程度読み込み、レポート(書評や映評)を3本程度書き、パワーポイントを用いて発表し、提出してもらいます。

演習指導教員は、文献や映像を案内し、発表についての受講者相互の議論を活性化し、レポートを添削します。可能なら、秋学期はグループ研究を行います。

テキストは、以下のカテゴリから受講者が自由に選択することになりますが、ここに挙げていない文献や映像なども追加で案内します。

1. 環境問題の歴史を学ぶ(日本編)：石牟礼道子『苦海浄土』他
2. 環境問題の歴史を学ぶ(海外編)：レイチェル・カーソン『沈黙の春』他
3. 環境経済学を学ぶ：植田和弘『環境経済学への招待』他
4. 環境政治学を学ぶ：松下和夫『環境政治入門』他
5. 映画で学ぶ環境問題：『エレン・ブロコビッチ』(テーマ：土壤汚染) / 『シビルアクション』(テーマ：公害訴訟) 他
6. 環境技術展の見学：「エコプロダクツ展」・「省エネルギー展」 / 自然エネルギー施設見学
なお、専門演習(3.4年ゼミ)で行っている養蜂プロジェクト(千代田区の蜜源植物の調査)に参加できます。

授業到達目標：

適切にレポートが書け、研究発表ができる能力を身につけること。共同論文の作成。

教科書・使用教材：

教科書はなし。参考文献多数。

受講希望者に対する希望：

環境問題への高い関心と出席する意欲。

準備学習の内容：

指定された文献・資料を読んでおくこと。

成績評価方法：

授業への出席と積極性(50%)、レポート内容(50%)

教員の研究分野…環境経済学・環境政策学・釣りと流域環境保全・養蜂と環境

募集人員…10名程度

募集方法…「環境問題への関心の深さを問う」面接(初回の授業時)

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 無

演習テーマ：夏目漱石と村上春樹を読む

授業内容：

近代と現代をそれぞれ代表する人気作家・夏目漱石と村上春樹の作品を読解する。

高浜虚子に誘われて英文学者・夏目金之助が気楽な気持ちで「吾輩は猫である」を書いたのは、いまから100年以上前のことである。これは作家・漱石誕生の契機となる意味深い出来事だが、その後朝日新聞社専属の職業作家になった漱石は、「明暗」執筆中の大正5年に病死するまでのわずかに十数年の間に、「坊っちゃん」や「三四郎」、「それから」といった、こんにち名作の名で呼ばれる小説をつぎつぎと発表した。これらの作品のなかで漱石は親子や兄弟、夫婦といった人と人との関係を繰り返し描いたが、それは現代の私たちが人と結ぶ関係やそこに胚胎される問題となお、深く接続しているといつてよい。

1979年の群像新人文学賞受賞作『風の歌を聴け』でデビューした村上春樹は、これまでに多くの読者を獲得してきた。彼の小説のなかの断片的な物事やさりげなく写しとられただけに見える場面は、注意してみると、実は作品のテーマそのものに深く結びつく重要な鍵である場合が少なくない。こうした彼の小説はどのようにすれば、より深く読むことができるだろうか。このゼミではこれらの小説を分析的に読むことにより、夏目漱石と村上春樹の作品世界の再構築を試みたい。

ゼミ員は各自、担当した箇所についての研究成果をレジュメにまとめたうえで口頭発表し、全員で討論をしながら相互に理解を深める。つぎのような小説を研究対象とする。

夏目漱石：『坊っちゃん』明39 『三四郎』明41 『それから』明42 『ころも』大3(すべて新潮文庫)

村上春樹：『風の歌を聴け』1979(講談社文庫) 『蜚・納屋を焼く・その他の短編』(全5編)1984(新潮文庫) 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(上・下)1985(新潮文庫) 『ノルウェイの森』(上・下)1987(講談社文庫)

以上の小説を通読すること、口頭発表・質問・討論についての基本的な技術を身につけることを到達目標とする。

教科書・使用教材：

上記の計10冊

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

積極的に発言できる学生を歓迎する。また他のゼミ員に迷惑をかけないように、とくに発表者と司会者は無断欠席などをしないように心がけてほしい。ディスカッションの準備として、事前に当該作品を通読しておく必要がある。

成績評価方法：

発表内容60%、演習への貢献度40%

教員の研究分野…近代日本の文学・文化

募集人員…10名程度

募集方法…初回の授業時に決定

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：中国革命を考える

授業内容・授業到達目標：

中国は、党（中国共産党）が国家を指導する国です。党と国家との関係は、日本とはまるで違います。それを理解することなく、「日本では常識だから」と中国を批判していても、外野席の酔っぱらいが遠く離れたバッターにヤジを飛ばしているようなものです。

また、中国はマルクス・レーニン主義を今でも掲げている国です。その一方で、日本からは「資本主義」に見えるような要素を国内に残すことを今でも認めている国です。ヤジがお好きな外野席からは両者は矛盾しているように見えるようですが、中国の歴史に理解を深めれば、そんな簡単なことではないと分かってきます。だいたい、「1949年に中国で社会主義革命が起こった」と皆さんは教え込まれたはずですが、それならば、なぜその後20年近くも経った時期に、プロレタリア独裁を掲げる文化大革命が激しく展開されたのでしょうか。そして、これを説明できる学生が日本にどれだけいるのでしょうか。

ひと昔前と違って、今の日本の大学生にはマルクス主義や革命について思索する場はなかなかありません。ただ、これだけ影響力のある中国を理解するうえでは、そうした思索は避けて通れないことです。この教養演習でも、中国を理解するための入口として、マルクス主義やレーニン主義、そして革命について基本的な文献を輪読しながら学生と一緒に考えていこうと思います。

教科書・使用教材：

開講時に指示しますが、おそらくはマルクスやレーニン、毛沢東の代表的な文章（日本語）を読むか、あるいはそうした文章の解説書を読むことになると思います

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・毎回の出席を前提とするので、体育会学生（あるいはその他サークル活動等で忙しい学生）については、部（サークル）の活動であっても欠席が一度や二度ですまない学生については履修を原則的に認めません。
- ・今年度は輪読における発表は順番に担当者を決めて、要約と問題提起のレジюмеを作り、それを使って口頭で発表してもらう形式を採ります。
- ・中国近現代史に関心のある学生や、社会科教員を目指す学生を特に歓迎します。
- ・特殊事情がある学生は事前に相談してください。

成績評価方法：

授業への貢献度100%

- ・発表の当番でない週でも、読むべき範囲を読んでこない学生には単位を認定しません。

教員の研究分野…東アジア近現代史

募集人員…10人前後

募集方法…「本ゼミへの志望理由」を作文して、初回に提出してください。想定はしておりませんが万一応募者多数の場合、その作文の内容に基づき履修許可の可否を判断します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無 ただし今年度は投稿を予定

演習テーマ：Economic Affairs (経済事情)

授業内容・授業到達目標：

この演習は、経済(経済学)入門として位置づけられ、今日の経済社会において、私達が責任ある市民として生活し、それぞれの分野で自分の役割を果たしていくために必要な経済の知識を身につけるとともに、現実にはどのような問題が起こっているのか理解していくことを目的としています。

この演習においては、日常的に関心を持って経済ニュースを集め、毎週、現実経済の中から自分が特に重要だと考える経済時事問題を取り上げて発表してもらい、少人数のグループに分かれて討論していきます。また、春学期と秋学期の後半には、より深く掘り下げてみたいテーマを選んで共同研究を行い、その成果を発表します。(※ゼミ生の希望に応じて内容変更の可能性あり。過去には、「ディベート」、「経済実験」、「経済系ボードゲーム」等を実施。)

最終的には、受講生全員が、代表的な経済情報紙である「日本経済新聞」を読みこなし、これらの情報を批判的に検討し、自らの考えを展開できるようになることを目標としています。また、経済(経済学)の楽しさ、面白さを実感しながら、大学で学ぶために必要な基本的スキルを磨くことも目標の一つとして考えています。

教科書・使用教材：

(教科書)『ネットニュースではわからない本当の日本経済入門』伊藤元重【著】、東洋経済新報社(2021年)

(使用教材)日本経済新聞

※その他、必要に応じて経済入門書や参考文献を提示いたします。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

「経済」と聞くと難しいイメージを持つかもしれませんが、「経済」というのは、決して本の中だけの議論ではなく、私達が日常行っている活動の集まりであり、「現実の生活」そのものです。ですから、私達が「経済」について知るといことは、人々がどう考え、行動し、世界全体としてどのように機能しているのかを知ることだと言えます。それによって、私達は、経済・社会が将来どのような方向に向かって進んでいくのかということを見通す力(洞察力)を養うことができるのです。そのため、演習では、様々な問題に関心を持って何事にも積極的に取り組む姿勢が求められます。このゼミで何を得られるかは、皆さんの努力にかかっているといえます。

準備学習の内容：

受講生には、毎日、「日本経済新聞」を読んで経済情報を集め、現実経済の動きを追いかけてもらいます。また、毎週、その中から自分がとくに重要だと考える経済時事問題を取り上げて、その問題についての自分の意見(自分はどのように考えたのか)を準備する必要があります。

成績評価方法：

演習への貢献度50%、演習課題(授業時発表を含む)30%、目標到達度評価20%

教員の研究分野…グローバル経済の分析と経済政策、経済成長理論と経済成長政策に関する研究

募集人員…15～20名程度

募集方法…初回ガイダンス時に配布する身上書の提出による書類選考

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

専任講師 武田 紘平 木曜5時限 (通年)

担当科目：運動学演習、健康・運動科学I

演習テーマ：理論と実践から自身の体を知る

授業内容・授業到達目標：

健康の維持・増進や体力向上のためには、正しい知識を身に付け、日々継続して運動を行う必要があります。しかしながら、20歳代の運動実施率は男性で約25%、女性で20%未満と高いとは言えません。また、運動が健康に良いことは誰でも知っていますが、運動を行うと身体ではどのような適応が起きるのか、どのような運動をどのように行うのが効果的か十分に理解されていません。

本授業では、スポーツ科学的視点(運動生理学、スポーツ医学、運動栄養学、トレーニング学等)から運動・トレーニングを理解し、自分の嗜好や目的にあった運動処方確立する授業です。春学期はBig3を中心とするレジスタンストレーニング(筋トレ)の正しい方法について理解・実践することで身体の適応についてみなさん自身で実感してもらいます。秋学期は持久性トレーニングが中心となり、最大酸素摂取量や自身の筋線維割合の推定などを行います。理論ではスポーツ科学に関する書籍や論文(日本語、英語)の輪読会を行い、最新の知見を理解すると共に自身の生活・トレーニングに取り入れることを目指します。一年を通して皆さんの身体について学び、将来的に自分で考え運動を実践できることが目標になっています。

教科書・使用教材：

石井直方の筋肉の科学2.0(ベースボールマガジン社)…全員に購入してもらいます。

また、追加資料を指示・配布することがあります。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

春学期と秋学期を通して授業への出席が前提となります。

普段から積極的に運動・トレーニングを行うことを推奨します。この授業では強度の高い筋トレやランニング等激しい運動を行いますので注意してください。受講にあたって、特別な準備学習の必要はありませんが、スポーツ科学に関する専門用語や英語文献を取り扱うことを理解した上で受講してください。トレーニングウェア、運動靴(体育館用)、シューズケース等は各自で準備してください。

成績評価方法：

授業への取り組み度合い40%、授業内での発表30%、レポート・提出物30%

教員の研究分野…運動生理学、分子生物学

募集人員…12名程度

募集方法…希望者多数の場合は、初回授業時にスポーツ科学に関するレポート課題を課します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：経済指標の what and so what

授業内容：

貿易収支、消費支出、物価指数、企業収益、株価指数・・・世の中には数えきれないほどの経済指標が溢れています。それぞれの経済指標がどのような物であるかは、Google先生が一発で教えてくれますし、政府統計もインターネット上で簡単に入手できる物が増えてきました。しかし、足元でとある経済指標がこのように動きましたと言われて、「へーそうなんだ」で終わると、「それってつまりどういうこと?」「どうしてそうなったの?」と考えるのでは、大きく違うことは言うまでもありません。

当該演習では春学期に経済指標の「それってつまりどういうこと?」にフォーカスし、経済指標がどのような物であるかだけでなく、その動きが何を意味・示唆しているのかについて学びます。秋学期は「どうしてそうなったの?」に注目し、経済指標の動きの背後にある原因を探るための分析手法について学習します。

授業到達目標：

通年での演習を通じ、身の回りに溢れている経済指標に関する初歩的な理解だけでなく、それが示唆することや、その背後にある「何故?」を分析するのに必要な初歩的な手法に関する理解を身に付けることを目指します。これは同時に、その先として、実際に指標が示唆することについて考えあるいは議論し、自ら手を動かして分析することを期待するものでもありません。

教科書・使用教材：

春学期：コンスタブル、サイモン、ロバート・E・ライト著、上野泰也(監訳)・高橋璃子(翻訳)(2012)『ウォールストリート・ジャーナル式 経済指標 読み方のルール』かんき出版

秋学期：松浦寿幸著(2012)『独習! ビジネス統計』東京図書

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

春学期は上記の教材を履修者で分担し、事前に読み込んだ上で内容をスライド資料としてまとめ、演習時間内で発表してもらいます。秋学期は春学期同様の発表に加え、演習時間内で実際にExcelの操作を行います。そのため、事前の教材の精読と資料作成、最低限度のExcelの操作スキルが欠かせない。

成績評価方法：

講義への貢献：30%、発表内容：50%、他の学生の発表に対するコメントや発言、そのに基づく議論など：20%の比重で、明治大学の評価・評点基準に沿って成績評価を行う。

教員の研究分野…国際経済学、国際貿易

募集人員…13名程度

募集方法…多数の応募があった場合は初回の演習時間内で簡単な面談による選抜を行う

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

特任講師 アベシンヘ ムディヤンセラゲ, ニロス チャミンダ 金曜3時限 (通年)
担当科目 : アジア政治論、政治学特殊講義、専門演習

演習テーマ : Course Title: Indian Ocean Politics

授業内容・授業到達目標 :

Indian Ocean Region (IOR) has become a strategically significant region in the contemporary global political sphere. Its geo-political location and geo-economics values signal the upcoming Asian century. With the conversion of the Indian Ocean into the Indo-Pacific, power relations among regional and extra-regional players are altering into complex and strategic directions instrumental for causing a new balance of power in the region.

This course, which is focused on Indian Ocean politics helps students to enhance their international political awareness. Particularly by reviewing the literature, students will be able to identify the geopolitical and geo-economic significance of the Indian Ocean region. Moreover, the students will understand the behaviours and strategic approaches of the democracies and non-democratic regimes in the region's rising powers, such as China, India, Japan, and Australia, to achieve their national interests. Furthermore, students will be able to identify the global and extra-regional powers' responses to impending pressure on status in the region.

Themes for the individual study and joint readings can be selected from the theoretical and empirical literature available on Indian Ocean politics.

教科書・使用教材 :

The Indian Ocean as a New Political and Security Region, Book by Frédéric Grare and Jean-Loup Samaan, 2022

受講希望者に対する希望・準備学習の内容 :

Selected students are required to go through the assigned texts individually as well as in groups. All students should actively engage in class discussion during the entire academic year/semester. Moreover, students will be given individual and group presentations based on the reading materials and their research interests. Students anticipating to compose a dissertation/ research paper must do the progress presentation and submit a research paper at the end of the academic year.

成績評価方法 :

Class Participation: 40%

Literature review (reading text): 30%

Individual Presentations: 30%

教員の研究分野…Asian Politics, Politics of South Asia, Indian Ocean Politics

募集人員…Up to 20 students

募集方法…If the number of applicants is higher than 20, students will be selected for admission through a preliminary interview

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無(2024年度新規開講)

演習テーマ：体力・運動能力・健康度を探る

授業内容：

本演習の目的は、様々な運動・スポーツの実践、日常ではあまり触れることのできない機器を使用した体力測定の実施などを通して、自身の体力、運動能力、健康度について客観的に評価できる能力を養うことである。

春学期は、「和泉総合体育館・サブホール」において、いろいろな運動・スポーツを実践し、それを通して自身の体力についての現状を認識すること、およびゼミ員相互の親睦を深めることを主たる目的とする。秋学期は「和泉総合体育館・フィットネスルーム」で、自分の「体力」を測定、評価し、その評価から自分に対するトレーニング処方(目標決定、それを達成させるためのトレーニング方法の選択)できる能力を養うことを主たる目的とする。

春季休暇中(3月上旬を予定)は、ゼミ合宿(スノースポーツ合宿)を実施し、ゼミのまとめを行う。

到達目標：

受講生は、様々な運動・スポーツの実践を通して、自身の体力、運動能力、健康度について客観的に評価できるようになる。また運動・スポーツを通して、ゼミ員が積極的にコミュニケーションを取り合い、日常生活にも活用することができるようになる。

教科書・使用教材：

特になし。

受講希望者に対する希望：

本演習の受講を希望する者は、単に「運動・スポーツ好き」に止まらず、自分の身体や体力、運動能力について興味があることを大前提とする。また、授業は休まず、他人任せにせず、自主的・積極的に行動できる学生の入室を希望する。

授業の準備学習：

毎回、体育館内で運動・スポーツを実施するため、運動に適した服装(ジャージ等)・靴(体育館シューズ)、シューズケース(外靴収納用)など、最低限必要な準備を怠らないこと。また、自己の健康管理を行い、授業参加に支障がないよう努めること。

成績評価方法：

- 一般学生 ：① 演習への貢献度(70%)
 ② ゼミ合宿参加状況(30%)
スポーツ推薦入学者：① 課題への取り組み・提出状況(50%)
 ② 約束事項遵守状況(50%)

教員の研究分野…運動生理学、運動生化学、体力学

募集人員…①4月初回の授業欠席者は、一般学生・スポーツ推薦入学者共に履修を許可しない。

②一般学生は、1年生：10～15名、2年生：10～15名、合計20～30名の予定。

③スポーツ推薦入学者は、一般学生と別枠で受け入れる予定。但し、覇気がなく目的意識のない者、約束事項を守れない者には単位を認定しない。

募集方法…4月初回授業で「ゼミ実施要項」を配付し、入室希望の一般学生には「入室希望調書」を記入・提出してもらおう。正式な受講予定者は「入室希望調書」の内容を精査して決定し、発表する。発表の方法は、初回授業時に連絡する。

入室が決定した場合、履修キャンセルは遠慮してもらいたい。また、ゼミ合宿には参加できることを前提とする。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：人口とライフコースの変化から見る未来社会

授業内容・授業到達目標：

現在日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢化がもたらす経済社会の歴史的転換に直面しています。地方ではすでに多くの自治体やコミュニティーの存続が危ぶまれており、その先には日本社会全体の持続可能性も問われています。

実際、人口変化の社会経済に与える影響は根深く、たとえば有権者人口が高齢化することで国の政策が高齢者よりになったり、消費市場が高齢化することで減って行く子ども・若者層向けの製品やサービスが劣化するなど、政治面でも経済面でも若者や子育て世代が不利になるおそれがあります。すると少子化がさらに進行してしまい、人口減少、高齢化がいっそう深刻化するという悪循環のしくみが働きます。これまで社会を支えてきた民主主義や市場原理といった基本理念そのものが、この悪循環に加担しているわけです。こうした社会の成り立ちの変質は、産業革命以来発展してきた現代文明の行き詰まりと、新たなシステム再構築の必要性を示しています。

本演習では、今後世界のすべての人々、すべての活動に影響を与えるだろうこの歴史的社会的変動を題材としつつ、それらを科学的に把握し考察するための基本スキルや思考力を養います。統計やデータサイエンスの基礎を学び、独自の問題意識の形成や、分析・考察、論文作成、討論、口頭報告などに関する技術を習得します。これらは今後の大学生活や卒業後の職場における活動の基礎となるものです。

教科書・使用教材：

随時、資料を配付（Oh-ol Meiji システムによるPDF、EXCEL 形式等ファイルの配布）

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

人口、社会、未来に対する関心

成績評価方法：

学期末レポート 50%、演習への貢献度（出席、発言、発表等） 50%

教員の研究分野…人口学、データ科学、ライフコース学、人類科学

募集人員…14名以内

募集方法…初回授業参加のこと。希望多数の際はアンケートによる選考。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

特任講師 デヴェラ、ローナヴェリア 金曜3時限(通年)

担当科目: ACE、留学基礎講座、留学準備講座 I

演習テーマ: 国際異文化交流に向けて英語で日本文化を再考して語る

授業内容・授業到達目標:

In Japanese university English classes and cross-cultural exchanges between Japanese and foreign students conducted in English, I have observed that conversations would suddenly and often come to a halt when Japanese students are asked questions about Japanese culture and current affairs and they become at a loss for answers.

Based on these experiences, this seminar class was designed for students to learn about Japanese culture in English and to receive instruction on how to ask and answer questions, share opinions, and lead conversations and discussions about topics on this theme. The seminar objectives are twofold: the first is for students to speak confidently about Japanese culture and current affairs in English. The second is to help students think positively about their own culture and enhance their knowledge of it so that they can apply it in international and intercultural exchanges with English speakers and in study abroad programs.

In this seminar, students will be able to relate what they have learned in class about various topics and themes related to Japanese culture to their own experiences, feelings, and thoughts as Japanese. They will be able to talk about their own values and beliefs, explain their views and ideas about life in Japan to foreigners in English, compare and contrast their views and ideas with those of other countries, and in doing so, learn to broaden their worldview. Students will learn to engage in deeper and more meaningful discussions about Japan and Japanese culture, while developing cultural sensitivity and literacy, and refining their communication and critical thinking skills.

The course also offers Seikei students a valuable opportunity to explore ways of introducing Japanese culture to English speakers so as part of the seminar assignments, students will plan and implement these with options of out-of-class activities such as study tours in and outside of Tokyo, visits to famous sites, and cultural exchange meetings with foreigners. In addition, through visitor sessions and talks on Japanese culture and society, there will be opportunities for students to freely exchange opinions and ask questions not only with each other and the faculty member in charge, but also with guest speakers from Japan and overseas.

これまで私が見た英語で行われる日本の大学授業でも日本人と海外学生の実際の異文化交流でも、日本人学生が日本文化や日本事情について質問されたとき、突然途中で会話が中断して、答えに窮してしまうのです。

このような経験から、本演習を、英語で日本文化を学び、そのテーマについて質問と回答、意見の共有、会話やディスカッションを主導する方法について学んでいただけるよう考案しました。具体的には2つの目的があります。一つ目は、日本の文化や事情について自信を持って英語で話せるようになることです。もう一つは、学生が自国の文化について積極的に考え、その知識を深めることで、英語話者との国際異文化交流や留学プログラムに生かすことができるようにすることです。

このゼミで履修者が授業で日本文化に関する様々な話題やテーマについて学んだことを日本人としての自分の経験や感情、考えと結びつけて、語られるように目指します。自分の価値観や信念を話し、日本の生活についての見方や考えを外国人に英語で説明し、他国の見方や考え方と比較対照できるようにし、そうして世界観を広げるための学びとなります。日本や日本文化についてより深く有意義な議論ができることを学びながら、文化的な感受性とリテラシーを身につけ、コミュニケーション能力と批判的思考力を磨きます。

政治経済学部生たちに貴重機会を提供したいと思いますが、このゼミの課題として履修者が日本文化を英語を使って紹介する自らの方法を計画・実施され、東京内外のスタディツアー(研修旅行)、名所巡り、外国人との交流会など授業外活動も選択肢に入れます。また、日本の文化や社会に関するビジターセッションやフリートークなどを通して、学生同士や担当教員だけではなく、国内外のゲストスピーカーとも自由に意見交換したり質問したりする場を作っていきます。

教科書・使用教材:

教科書は特に使用しません。授業時に必要に応じて資料はプリント配布します。

受講希望者に対する希望:

本演習は、真剣に留学を目指す学生や、国際文化交流に興味のある学生に最適です。基本的に英語で行いますが、ディスカッションや講義の内容が理解できるレベルの英語力が必要です。必要に応じて日本語での指導も行います。

受講を希望する学生は、定期的に授業に出席し、授業が始まる前までにディスカッションや学習活動に関与できるように十分に予習をして出席することが求められます。また授業中に議論を深めるために質問をすることが奨励されます。熱意と前向きな受講姿勢があり、勉強で何を学び、何を達成したいのかを明確にする自律した学習者になることが望まれます。また、与えられた時間内に宿題、授業内外の課題等の事前準備に取り組み、すべての課題を完遂してほしいです。

ほとんどの教室内でのアクティビティは学生が発言したり、自らの考えを表現したり、クラスのメンバーと意見交換したりすることとなるため、遠慮せずにはっきり話すことができ、協力的な態度で積極的に授業に参加することが必要不可欠です。

成績評価方法:

出席・授業への積極的な参加(50%)、授業時のディスカッションや演習への取り組み(30%)、指定された課題や宿題の達成度(30%)

*当該授業の修得単位は、ACE修了要件の上限に2単位まで参入することができます。

教員の研究分野…外国語教育、日本語教育、教授法

募集人員…10名程度

募集方法…本演習では使用言語として英語と日本語の両方を用いますので、できればTOEIC 520点以上、ACE科目、留学準備講座、そしてトップスクールセミナーを少なくとも履修登録していることが最低限です。初回授業にTOEICスコア、ACEエントリーシート等の必要な関係書類を持参してください。当時ガイダンスを行い、自己紹介と簡単な文章題を書いてもらいます。それと英語・日本語で面接により決定します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：町づくりを考えてみよう

授業内容・授業到達目標：

人は互いに支えあって生きているという見地から自分と社会の関わりを考え、各自の将来のフィールドで主体性を持ち能動的に提案・行動できるような姿勢を学びます。日本のグローバル化に伴う合理化によって、日本の原風景とともに日本人の心が失われつつある今日、行政や行政区画とは関係なく存在してきた伝統的歴史的文化や風習を守り、住みよい地域社会を実現するためには何ができるかという問題を考えます。地域に根ざす風土は地域のアイデンティティーとも言えますが、それは、伝統的・歴史的文化に裏打ちされた、地域を支える精神となっていることが少なくありません。しかし、経済効果を優先した一極集中型の大都市の肥大化により、これらの地域は大都市に融合し、その一部としての機能を持つようになります。それは「発展」という言葉で包括されることですが、その地域の持つ美しい個性、伝統、地域の文化に根ざした産業、町の美しい景観までもが失われ、人々の守り伝えてきた精神性も失われてきたと言えるでしょう。これらはグローバリズムがもたらした悲劇です。この面に焦点を当て、町づくりという観点から空間のデザイン、地域と地域住民を繋ぐ精神的アイデンティティー、地域の求心力となるものの重要性を考え、自らが所属している地域や好きな街の特色、行政、NPO活動などに目を向け発表してもらいます。そして理論から実際の現実へと目を向け、次世代を築く責任が自らにもあるという姿勢を忘れずに前向きに日本の未来の社会のあり方を考えていきましょう。

教科書・使用教材：

必要に応じてプリントを配布します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

フィールドワークをするので、積極的に自ら考え、行動する学生を歓迎します。

成績評価方法：

演習への貢献度50%、発表25%、レポート25%

教員の研究分野…18世紀におけるフライマウレイとヨハン・ヨアヒム・クリストフ・ボーデ(具体的には、フライマウレイの中に、18世紀におけるドイツ社会の共和制や民主主義思想の萌芽、並びに社会を動かす原動力を見る)

募集人員…15名程度

募集方法…アンケートと面接によって選抜

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 投稿予定

演習テーマ：ベンチャー・中小企業経営研究

授業内容・授業到達目標：

ベンチャー・中小企業による産業の苗床機能の発揮が、先進諸国でも、発展途上国でも期待されている。なぜなら、今日のホンダやソニーも、創業当初は小さな町工場からスタートして、一大産業を築いたからである。また、経済のグローバル化、サービス化、AI/IoT化など、企業を取り巻く経済環境は変化し続けている。従って、経済学を学ぶための前提条件として、①企業活動に対する強い関心を持つ、②企業の経営実態を十分に観察する眼力を身につける必要がある。

そこで第1に、ベンチャー・中小企業の実態と今日の大企業が中小企業から大企業に成長・発展してきたプロセスについて、文献、白書などを通じて研究し、その内容に関する研究発表を行う。第2に、映像を用いて、経営者のコメントや企業活動の現場紹介から経営の実態を学び、それに基づくレポート作成を行う。なお、ビジュアル教材の内容は、中小企業の連携・組織化活動、ベンチャー・中小企業の経営者像、創業・新事業創造から大企業に至ったプロセスなどとする。第3に、課外授業として、工場や物流センターなどの現場視察を行う。最後に、これら一連の研究活動を通じて、各自、ベンチャー・中小企業を研究対象としたケーススタディによる論文を作成する。

教科書・使用教材：

『空洞化する都市型製造業集積の未来』森下 正著、同友館、2008年

『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』安藤信雄著、同友館、2021年

『中小企業白書 2023年版』中小企業庁編、日経印刷、2023年

『中小企業白書 2024年版』中小企業庁編、日経印刷、2024年刊行予定

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

受講にあたり経済学の基礎知識として「マクロ・ミクロ経済学」を、テクノロジーの変遷に関する知識として「歴史における科学」を、文章表現能力を養うために「国語表現」「日本文学」を受講することをお勧めする。また、経済活動の実態に興味があり、無遅刻無欠勤の皆勤で最後までやり抜く強い意志のある者の受講を望む。また、授業前の発表用資料の準備を怠らせずに実践してほしい。

成績評価方法：

論文作成 30点 + 課題レポート 20点 + 課題発表 20点 + 現地視察レポート 30点 = 100点

教員の研究分野…中小企業（ベンチャー）論、地域産業論、工業政策

募集人員…15名程度

募集方法…筆記試験（ベンチャー・中小企業・地域産業に関する時事問題に関する作文）

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：現代ドイツ政治談議

授業内容・授業到達目標：

この演習では受講生の皆さんが一年を通じてたくさんの本を読み、活発な議論を行う場を提供したいと思っています。その結果、毎日の読書習慣が自然と身につき、他のゼミ生との自由な語らいを通じて知性が磨かれ、人間性が育まれることを期待しています。

演習のテーマは「現代ドイツ政治談議」としました。教養演習の上述の目的を達成するためなら本来お題目は何でも良いのですが、「座談」に花を咲かせるためにこのテーマを選びました。演習のタイトルに冠した「現代ドイツ」は単なる議論の出発点であり、最初の取っ掛かりに過ぎません。最後にどこに辿り着くかは、それぞれの受講生の興味関心の赴くところによります。「現代ドイツ」とはおよそかけ離れた時代や場所に着地することになっても、それが「政治談議」に触発され、各人が自発的に選び取ったテーマであるならば一向に構いません。研究過程における「寄り道」や「遠回り」はむしろ大歓迎です。

授業前に友人と交わす何気ない「雑談」のひとつも、授業後に友人と膝を交えて語り合う「飲談」のひとつも、「演習」の重要な構成要素の一つです。大学に通う意義も、通学の途中で出会う人や風景も含めて、こうした「余白」の部分にこそあるのではないのでしょうか。コロナ騒動に明け暮れた三年の間にこの事がすっかり忘れ去られ、しかも進んで忘れることが美徳であるような世界になってしまったので、あえて付言しました。

教科書・使用教材：

以下の文献は教科書ではなく、参考教材の一例です。それぞれの著者がどのような政治的スタンスで現代ドイツを見ているかをおさえながら読書する訓練もします。

高野弦：『愛国とナチの間—メルケルのドイツはなぜ躓いたのか』朝日新聞出版、2020年

藤田直央：『ナショナリズムを陶冶する—ドイツから日本への問い』朝日新聞出版、2021年

川口マーン恵美：『左傾化するSDGs先進国ドイツで今、何が起きているか』ビジネス社、2022年

木戸衛一：『若者が変えるドイツの政治』あけび書房、2022年

三好範英：『ウクライナ・ショック—覚醒したヨーロッパの行方』草思社、2022年

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

- ・上述の授業内容の趣旨に賛同できる学生の参加を希望します。
- ・読書、レジュメ作成

成績評価方法：

演習への貢献度50%、授業時の発表内容50%

教員の研究分野…ドイツ文学

募集人員…7,8名

募集方法…初回授業時の面談(場合によっては小論文)によって決定する

政経教養セミナー投稿 2022年度 有・2023年度 投稿予定

演習テーマ：広告コミュニケーションと文化

授業内容・授業到達目標：

本演習では、広告コミュニケーションの問題を取り上げる。広告というと商業広告をまず思い浮かべることが多いが、商業分野と企業のPR活動や政治広告(宣伝)など他の分野との境界は実際には曖昧である。いずれも広い意味での説得的コミュニケーションと考えられる。

今回選んだテキストは、実証研究にもとづき各国の文化の〈型〉を特定したうえで、こうした各国の文化的特性が、広告メッセージの訴求の仕方や効果にどう影響しているかを、具体的な事例を用いて興味深く例証したものである。

このテキストを精読することで、①主要各国の文化的特性について知り、②そうした文化的特性が広告メッセージの作られ方や説得の効果にどう影響しているかを学ぶことができる。さらには、③異文化について知ることは自国の文化への理解を深めることにもつながる。

演習の中では著者の主張をそのまま真に受けるのではなく、テキストを批判的に解読することも試みてほしい。読んでみると、ツッコミどころの少なくないテキストでもある。また、章ごとに分担を決め、内容をまとめて皆の前で報告してもらおうが、そうすることで効果的なプレゼンの仕方についても実践的に学ぶことができるだろう。

教科書・使用教材：

山本真郷・渡邊寧『世界の広告クリエイティブを読み解く』(宣伝会議、2023年)

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

本演習と合わせて「メディアコミュニケーション論」(火1・春学期)の受講を勧める。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…マスコミュニケーション論、政治コミュニケーション論

募集人員…10名前後

募集方法…希望者多数の場合は、簡単なエッセイを書いてもらい選抜する。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：社会科学スタディーズ入門

授業内容・授業到達目標：

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に文化人類学や社会学、政治学におけるジェンダーとケアに関するテーマの文献（例えば、家族、性別規範、ケアワークなどに関するもの）を扱います。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつかの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組みます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、ジェンダーとケアに関する基礎的な文献を読み、レジュメを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

教科書・使用教材：

授業の際に指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

熱意をもって取り組んでください。また、普段から文章を読む癖をつけること。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…文化人類学

募集人員…15～20名

募集方法…希望者多数の場合は抽選

政経教養セミナー投稿 無（2024年度新規開講のため）

演習テーマ：社会科学スタディーズ入門

授業内容・授業到達目標：

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に心理学に関するテーマを扱い、政治的・社会的な問題について心理学的観点から検討します。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつもの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組めます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、心理学に関する基礎的な文献を読み、レジюмеを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

教科書・使用教材：

授業の際に指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

熱意をもって取り組んでください。出席と課題提出は必須です。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野… 社会心理学、パーソナリティ心理学、進化心理学
募集人員…8～12名程度
募集方法…希望者多数の場合は抽選
政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：『地域』を理解するために

授業内容・授業到達目標：

『地域』を研究対象とすることの意義やその射程について、下記の参考文献を含め様々なりファランスに基づいて文献参加者の間で議論します。座学に疲れた時には教室を離れ、地域としての和泉地区の<地理と歴史的特異性>について理解を深めことを主な目的とした、校舎周辺のオフ・キャンパス活動もできるだけ暑くなる前に複数回行う予定でいます。過去にはキャンパス脇に通じている江戸期以来の<玉川上水>脈を辿ったり、近隣の商店街散策、さらには洪積世由来の武蔵野台地崖にある湧水(跡)をホッピングしながら神<泉>~洪<谷>まで至ったりもしました。

さて今年、は・・・??

教科書・使用教材：

内山節「『里』という思想」(2005, 新潮社)

(事前買い揃える必要は当面ありません)

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

アウトドア系、インドア派を問わず、オフ・キャンパス活動にも参加できること。

所属学科は問わず、異なる学科や地域への具体的興味関心を持った多様な人たちの参加が望ましいと考えています。特別な事前学習の必要はありません。

成績評価方法：

参加度(個別発表&議論への参加度) 60%、最終レポート 40%

教員の研究分野…経済地理学、都市と地域の比較地誌学

募集人員…10名内外

募集方法…上記募集人数を超えた場合、選考を兼ねたエントリー課題を課す予定です。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：教養としてのジェンダー論を学ぶ

授業内容・授業到達目標：

この演習では、「ジェンダー」という概念を学ぶこととなります。ジェンダーという概念は、生物学的（であると仮定された）性別とは分けられた、社会のなかで作り上げられた性差の観念や、性差に基づく人間の理想像（「男らしさ」「女らしさ」）、性差をめぐる観念を通じて組織化された人びとの生活や労働などの営みのあり方を意味する概念です。この演習では、ジェンダーという概念を理論的に探究するよりも、現実社会のなかでどのようにこのジェンダーが私たちの認識や言動、私たちが生きる社会のあり方を作り上げてしまっているのかを考えます。政治学や経済学や行政学などを学ぶことになる皆さんが、「ジェンダー」を常に意識して政治経済的な現象を考えるという視点を獲得するようになることを、この演習の目標としています。

この演習では数冊の新書（先端的知見や学術的成果を、一般読者にわかりやすいように解説した、比較的安価で小さなサイズの書籍）を参加者と一緒に読み、内容について議論することを通じて、ジェンダーという切り口から社会を検討する方法について少しずつ学んでいきます。

毎週、テキストとして指定された新書（1冊を数回に分けて読みます）を事前に読み、コメントを提出してもらいます。当日はテキストをもとにしたディスカッションを行います。他者の意見を尊重しつつも、異論をぶつけ、一緒にさらに考えていくプロセスへの積極的な参加を求めます。

教科書・使用教材：

- ・杉田俊介『マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か』集英社新書、2021年
- ・牧野百恵『ジェンダー格差』中公新書、2023年
- ・三浦まり『さらば、男性政治』岩波新書、2023年
- ・前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書、2019年
- ・周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社新書、2023年

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

毎週、事前にテキストとされた新書の指定部分を読み、コメントをOh-o! Meijiに提出すること。ディスカッションには積極的に参加すること。

成績評価方法：

- 事前コメント 30%
- ディスカッションへの貢献 70%

教員の研究分野…アメリカ社会文化史、ジェンダー研究
募集人員…10名程度
募集方法…Oh-o! Meiji上のアンケートへの回答による選抜
政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：「アメリカ」を考えるための複数の視点

授業内容・授業到達目標：

この演習は、アメリカ合衆国の社会・政治・歴史について学ぶことを目的としています。しかし、概説的な政治や歴史の教科書を読んで学ぶよりも、高校までの授業では触れることが少ないような、さまざまな切り口からアメリカを捉え直してみるということを、この演習では目指したいと考えています。また、一般にメディアを通じて流布していたりネット上で蔓延しているような断片的で表層的な情報とは異なる争点や異なるアプローチを知ることによって、そのような情報を批判的に読み解くためのリテラシーを習得すること、そして、応用することでアメリカ以外の社会や歴史を考えるときに役に立つ「もうひとつの視点」を獲得することも目的としています。

この演習では、数冊の新書（先端的知見や学術的成果を、一般読者にわかりやすいように解説した、比較的安価で小さなサイズの本）を参加者と一緒に読み、内容について議論することを通じて、アメリカの社会と歴史を多様な切り口から考察する視点を習得していきます。

毎週、テキストとして指定された新書（1冊を数回に分けて読みます）を事前に読み、コメントを提出してもらいます。当日はテキストをもとにしたディスカッションを行います。他者の意見を尊重しつつも、異論をぶつけ、一緒にさらに考えていくプロセスへの積極的な参加を求めます。

教科書・使用教材：

- ・ 貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018年
- ・ 田中研之輔『ルポ 不法移民』岩波新書、2017年
- ・ 渡辺将人『メディアが動かすアメリカ』ちくま新書、2020年
- ・ 三牧聖子『Z世代のアメリカ』NHK新書、2023年
- ・ 鈴木透『食の実験場アメリカ』中公新書、2019年

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

毎週、事前にテキストとされた新書の指定部分を読み、コメントをOh-o! Meijiに提出すること。ディスカッションには積極的に参加すること。

成績評価方法：

- 事前コメント 30%
- ディスカッションへの貢献 70%

教員の研究分野…アメリカ社会文化史、ジェンダー研究
募集人員…10名程度
募集方法…Oh-o! Meiji上のアンケートへの回答による選抜
政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：地域社会を考える意義と手法を学ぶ

授業内容・授業到達目標：

この演習は、地域について考え、学ぶ際に必要な考え方、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。この演習では、主に政治学・行政学、そして地方自治の視点から、地域について学ぶ意義を考えます。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつもの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組みます。地域には、そこで暮らす住民の暮らしがあります。そして、そこには、さまざまな課題があり、それを解決するための知恵が必要です。本ゼミでは、地域とは何かという基本的な問いから始まり、議論しながら、地域についての知見を深めていきます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、地域を学ぶための基礎的な文献を読み、レジメを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

教科書・使用教材：

授業の際に指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

担当教員の指導に従い、熱意をもって取り組んでください。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度70% 課題への取り組み30%

教員の研究分野…政治学・行政学・地方自治論

募集人員…15名程

募集方法…希望者多数の場合は面接によって選考する。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：映像から学ぶ文化人類学的世界

授業内容・授業到達目標：

人や財の国境をこえた動きが加速する一方、人間と非人間の境界さえ曖昧になりつつある今日、文化の途方もない多様性に関心を注ぎ、そこから人間存在の根源的条件に迫ろうとしてきた文化人類学の視座は、これまで以上に重要な意義をもつ。本演習では映像作品の鑑賞と参加者による討論をつうじて、人類学的視座の習得を目指す。

文化人類学の習得方法として一般的なのは、理論書・民族誌の読解やフィールドワークの実践である。映像作品の鑑賞を主題とする本授業は、あくまで実験的な試みである。人類学的理論・方法論・知識の本格的習得を望む者は、別の授業の受講も検討して欲しい。鑑賞候補作品は以下の通りである。

・人類の多様性にふれる

『人間は何を食べてきたか』、『BBC 世界の祭・儀礼』

・真実と虚構の狭間

『人間ピラミッド』、『全身小説家』

・グローバリゼーションとは何か

『ダーウィンの悪夢』、『ザ・トゥルー・コスト：ファストファッション真の代償』

・負債と贈与

『ラデット』、『ベイ・フォワード：可能の王国』

・麗しき生、苛烈なる生

『祝(ほうり)の島：原発はいらない！命の海に生きる人々』、『檜山節考』

受講者には、想像を超える映像を通じて想像力を鍛え直し、あらたな世界を構想する力を養ってほしい。

教科書・使用教材：

とくになし。授業を通じて紹介する。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

毎回の授業ごとに、800～2000字程度のリアクションペーパーを提出することが必須の課題となる。また単なる感想ではなく、授業の内容をふまえて独自の思考を記すことが求められる。履修の可否の判断にあたってはくれぐれも注意すること。

成績評価方法：

授業中の発言等30%、リアクションペーパー40%、期末レポート30%

教員の研究分野…文化人類学、アフリカ地域研究

募集人員…10名程度

募集方法…希望者過多の場合には抽選を検討する。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：ブラメリカ (アメリカ合衆国探訪)

授業内容・授業到達目標：

アメリカを(バーチャルにですが)ブラブラします。ブラブラしながらアメリカの地理や歴史について学びます。

授業の進め方として、最初の1、2回は、大学レベルでアメリカを学ぶのに必要な基本的事項や今のアメリカが抱えている問題などについて、映像資料やドキュメンタリーをみたりしながらこちらから教授します。その後、受講者は各自が自ら問(とい)を立て、その答えを導いてくれるアメリカの都市や地域を選び、それについてリサーチして発表します。そして、報告者が中心となってそのテーマについてクラス全体で議論します。

問(とい)の例としては、「なぜディズニーランドは人を惹きつけ続けるのか?」、「なぜグランドキャニオンやイエローストーンの絶景は今も人を楽しませてくれるのか?」、「なぜニューヨークは多様性豊かな世界経済の中心であり続けているのか?」、「なぜLGBTQの人はサンフランシスコに集うのか?」など様々なものが考えられます。問は、できるかぎり「なぜ」で始まる形にして、一見当たり前に見えて、しかし発表が進むにつれて、その意外性や深さがあらわれてくるようなものが望ましいです。ただ、そういわれてもわかりにくいと思いますので、最初の1、2回において、こちらが期待している発表像についても説明します。よい問にたどり着くにはそれなりの学びが必要です。よい問を見つけることができれば、課題の半分は終わったといえるほどです。

発表準備や人の発表を聞いて議論する過程で、アメリカに関する資料に親しむと共に、現代アメリカ社会に対する理解も深めます。また、少人数によるゼミ形式の授業に慣れることも目指します。

半期完結型として開講します。

教科書・使用教材：

初回(受講希望者が定員をこえた場合は二回目)の授業で紹介します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

アメリカを好きな人も嫌いな人も歓迎します。ただ、何の関心もない人は辛いと感じるかもしれません。名前を呼ばれたら大きな声で「はい」と返事ができる人を優遇します。

成績評価方法：

演習への貢献度100%(授業時間内の発表50%、授業への参加50%)

教員の研究分野…アメリカ研究

募集人員…20名前後

募集方法…受講希望者多数の場合は、初回授業において選抜しますので、受講希望者は仮登録を行なった上で必ず初回に参加してください。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：コミュニケーションと身体性

授業内容・授業到達目標：

ITが発展すればするほど、私たちの人間性は退化しているように見える。インターネット、SNSの普及により、自分の言葉や身振りで表す感情の役割を絵文字が果たすようになってきた。合理的な感情しか体験できなくなった現代人は、絵文字に自分の感情を任せてしまうことで、自分の感情は愚か、他者の感情も理解し難くなってしまった。さらには、私たちは不寛容な生き物と化してしまっただともいえるであろう。本来感情(emotion)とは動き・行動(motion)を伴うものであるのに、ヴァーチャルな媒体に気持ちを任せてしまうと、感情を行動にうつせなくなる。最近はまだ、過剰なルッキズム指向により、本来の自分と素直に向き合えなくなっている者もいる。

この演習では、演劇やパフォーマンスがこれまでも他者理解に用いられてきたことに着目し、創造したり演じたりすることで、自分や他者の理解を深め、自分を取り巻く環境について身体行動を通して見つめ直すことを目的とする。授業はワークショップ形式で実施する。まずはシアターゲーム、即興、身体を使ったエクササイズからはじめ、受講者同士の緊張を解き、安全な場作りを試みる。次に、リラックスしながら集中し、想像力を高めていくような演劇的エクササイズへと発展させ、徐々に創作のプロセスへと入っていく。創作のテーマは受講者とコンセンサスをえて決め、成果は最終的に発表(非公開)という形で締めくくりたい。

教科書・使用教材：

プリント

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

身体や五感、想像力・創造力を使って学んでいくため、自分の身の回りで起きていること、自分のうちで起きていることに敏感であってほしい。また、授業中に提示された参考文献や参考資料は必ず目を通すとともに、課題には情熱をもって取り組んでほしい。

成績評価方法：

授業への参加度(50%)、成果発表(50%)

教員の研究分野…スペイン語圏文学・演劇史

募集人員…10名

募集方法…希望者が多い場合には、簡単なエッセイの執筆および面接で選考。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：社会科学スタディーズ入門

授業内容・授業到達目標：

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に国際関係論(国際政治学)に関するテーマを扱います。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつかの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組めます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、国際関係論に関する基礎的な文献を読み、レジメを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあひ学びあひます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

教科書・使用教材：

ジョセフ・ナイ他『国際紛争』(有斐閣、2017年)を輪読する予定ですが、くわしくは授業の際に指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

出席と課題提出が前提となります。熱意をもって取り組んでください。

政治学、国際関係論に興味がある方は、政治学基礎、政治学理論基礎、地域研究関連科目に真摯に取り組ましましょう。授業で紹介される参考書や教科書をきちんと読みこむことは、それほど簡単ではありません。授業とは独立して自分に興味のある書籍を読んだり、情報に接していますか？ まずは自分から積極的に情報を取る、というマインドセットを整えましょう。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…ヨーロッパ国際関係史、ヨーロッパ統合史

募集人員…10-15名

募集方法…履修希望者が15名を超えた場合は抽選を行います。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：『英語漬け、最新学習法習得とイベントを通して留学に備えよう！！』

授業内容・授業到達目標：

集中的に「英語基礎体力」を身につけ、仲間と楽しく且つハードに英語漬けの毎日を送り留学に備えたい、そして将来グローバルなプロジェクトに関わりたい人のためのゼミです。All Englishの環境で、グループワークなどを介して、最新の脳科学の成果などに基づいたウェルビーイングと効果的学習方法の知識を英語で学び、それを実践、さらに課題やイベント等を通して、英語漬け状態をキープすることで、長期留学に必要な語学力、対応力、効果的学習スキルを身につけることが目標です。

具体的には、マインドフルネスなどの実践に加え、各自が選ぶオンライン記事や本の英文レポート、TED.comなどについてのコメント等の課題、それらについての学生同士によるクイズゲーム、ディスカッションやプレゼンなどを通して教え合い、効果的にコミュニケーション力とアカデミック・スキルを向上させます。

また、ACEの履修生同士、そして卒業生との交流会などのイベントの企画開催などを通じ、広報等の経験を積み、協働プロジェクト遂行能力を高められると共に、留学経験のあるACE/森本教養演習の先輩、国内外でグローバルな仕事に従事する卒業生などとの交流の機会を得ることができます。

13～20年度のゼミ生を例にとると、すでに大半が中期～長期の留学（人によっては複数回、大学院を含む）を実現しています。

より細かい授業内容などについては初回授業で説明します。

履修上の注意：

この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。

・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。

・指定された教室以外での受講は不可であること。

なお、リアルタイムZOOMによる授業であることを配慮し、授業中5分程度の休憩時間を設けます。

授業は1学期で完結しますが、秋学期も継続して履修することを強くお勧めします。

また、このクラスを履修する方は、必ず他のACE授業（特にACE General Communication Skills とACE Academic Trainingのいずれか）も履修するようにしてください。

他に、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生/卒業生などが主催する各種イベント/勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなど（その内容によっては、このゼミのプロジェクトの一部として認める場合もあります）に積極的に参加することを強くお勧めします。

・授業で使用するZoomミーティングID：

<https://zoom.us/j/92299105901?pwd=OUUrVVgySDZoNUVUbTlTajI3TCs4dz09>

ミーティングID: 922 9910 5901

パスワードを設定する: 082980

・森本Emailアドレス（問合せ用）：yokomorimoto2012@gmail.com（必ずメールの表題に木5教養演習、学年、受講生名を明記してください。例：木5教養演習 1年明治花子）

*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZOOMでのリアルタイム授業が設定されています。

教科書・使用教材：

Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ¥1,100）ほか、主にオンライン上の記事やTED.com等のプレゼンテーション、映像、書籍など。

参考図書：

Go Wild, John Ratey and Richard Manning, 2015. ¥1,904

Brain Rules, John Medina, 2014. ¥1,609

Before Happiness, Shawn Achor, 2013. ¥1,904

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

「この1年間、英語力を飛躍的に伸ばし、近い将来に留学する」、という明確な目標を持ち、日々の努力を惜しまない人、学年、年齢にかかわらず、自ら率先してリーダーシップをとり、他者との共同作業を楽しめる人、を求めます。より集中的な英語学習環境を整えるために、ACE科目、留学準備講座、あるいはトップスクールセミナー等を他にもできれば2コマ以上、最低でも各学期1コマは履修してください。出来る限り春学期、秋学期続けてこの演習を履修してください。すでに留学経験のある方も大歓迎です。

学部の留学生サポーター制度（例年4月中に募集）や海外留学プログラムにも、積極的に参加してください。

仲間と切磋琢磨しお互いをサポートしながら自主的にACE/英語関連のイベントを計画、実行し、かつそのクリエイティブな過程や、このゼミ、そして卒業生を含むACEのコミュニティー全体の中で濃厚な人間関係を育みたい人の受講を歓迎します！このような経験は、将来の留学、グローバルなプロジェクト等を推し進める際にもきっと役立っていくことでしょう。イベントの多くは週末になるので、その準備も含め、スケジュールの調整が必要になりますので注意してください。また、木曜6限前半の時間帯にも準備作業等が入ることも多いので、できる限りあけておいてください。週末等のイベント、授業時間外の準備作業に支障のないスケジュール管理ができることが必須です。

成績評価方法：

演習への貢献度：40%（特別な事情を除き、半期3回以上欠席または大幅な遅刻や早退をした場合は原則として単位は認定されない。全てのゼミイベント等への参加を含む。）

Posts, reports and other written assignments: 30%（すべての課題を完了/提出しなければ単位は認定されない。）

Presentations and other oral outputs: 30%

*当該授業の修得単位は、ACE修了要件の上限2単位まで参加することができる。

教員の研究分野…英語教授法。脳科学、ポジティブ心理学等を基礎としたウェルビーイングの知見を生かした語学学習・教授法。プレゼンテーション指導法。演劇、多読、多視聴による自律的外国語学習とその支援。

募集人員…8名程度

募集方法…TOEIC 520点以上、ACE科目、留学準備講座、あるいはトップスクールセミナーに秋学期に少なくとも1コマ履修登録していることが最低条件です。初回授業にTOEIC、TOEFL、IELTS、英検等のスコア、ACE履修申し込みのエントリーシートのコピー、そして個人の時間割（その時点のもの）を持参し、ファイル、あるいは写真などで提出できるように用意しておいてください。このシラバスの内容を熟読して初回授業に臨んでください。英語と日本語の面接等を経て、受講者を決定します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：『英語漬け、最新学習法習得とイベントを通して留学に備えよう！！』

授業内容・授業到達目標：

集中的に「英語基礎体力」を身につけ、仲間と楽しく且つハードに英語漬けの毎日を送り留学に備えたい、そして将来グローバルなプロジェクトに関わりたい人のためのゼミです。All Englishの環境で、グループワークなどを介して、最新の脳科学の成果などに基づいたウェルビーイングと効果的学習方法の知識を英語で学び、それを実践、さらに課題やイベント等を通して、英語漬け状態をキープすることで、長期留学に必要な語学力、対応力、効果的学習スキルを身につけることが目標です。

具体的には、マインドフルネスなどの実践に加え、各自が選ぶオンライン記事や本の英文レポート、TED.comなどについてのコメント等の課題、それらについての学生同士によるクイズゲーム、ディスカッションやプレゼンなどを通して教え合い、効果的にコミュニケーション力とアカデミック・スキルを向上させます。

また、ACEの履修生同士、そして卒業生との交流会などのイベントの企画開催、学外でのプレゼン等の活動などを通じ、発信、広報等の経験を積み、協働プロジェクト遂行能力を高められると共に、留学経験や国内外でグローバルな職場経験のあるACE/森本教養演習の先輩方（在学生を含む）、などとの交流の機会を得ることができます。

13～20年度のゼミ生を例にとると、すでに大半が中期～長期の留学（人によっては複数回、大学院を含む）を実現しています。

より細かい授業内容などについては初回授業で説明します。

履修上の注意：

この授業は指定された教室において、ZOOMを使用して開講*されます。特に次の点に留意した上で履修してください。

・履修者が各自でPCとヘッドセット、またはイヤホン（マイク付き）を準備すること。

・指定された教室以外での受講は不可であること。

なお、リアルタイムZOOMによる授業であることを配慮し、授業中5分程度の休憩時間を設けます。

授業は1学期で完結しますが、春学期から継続してこの演習を履修することを強くお勧めします。一方、新たに秋学期から履修する方も歓迎します。

また、このクラスを履修する方は、必ず他のACE授業（特にACE General Communication Skills とACE Academic Trainingのいずれか）も履修するようにしてください。

他に、グローバルキャリア形成（GCD）プログラム、留学準備講座、トップスクールセミナー、ACEの学生/卒業生などが主催する各種イベント/勉強会、学部間共通外国語科目の夏期、春期の集中英会話講座、政治経済学部、明治大学主催、あるいは外部の海外留学プログラム、交換留学プログラム、学内外の学会、プレゼンテーション・コンテストなど（その内容によっては、このゼミのプロジェクトの一部として認める場合もあります）に積極的に参加することを強くお勧めします。

授業で使用するZoomミーティングID：

<https://zoom.us/j/92299105901?pwd=OUUrVVgySDZoNUVUbiTjTajI3TCs4dz09>

ミーティング ID: 922 9910 5901

パスコードを設定する: 082980

・森本Emailアドレス（問合せ用）: yokomorimoto2012@gmail.com（必ずメールの表題に木5教養演習、学年、受講生名を明記してください。例：木5教養演習 1年明治花子）

*この授業は、授業担当者の難病による障害に対する合理的配慮の一環として、特別にZOOMでのリアルタイム授業が設定されています。

教科書・使用教材：

Study Skills for College English 2nd Edition（慶應義塾大学経済学部英語部会編著 定価 ¥1,100）ほか、主にオンライン上の記事やTED.com等のプレゼンテーション、映像、書籍など。

参考図書：

Go Wild. John Ratey and Richard Manning. 2015. ¥1,904

Brain Rules. John Medina. 2014. ¥1,609

Before Happiness. Shawn Achor. 2013. ¥1,904

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

「この1年間、英語力を飛躍的に伸ばし、近い将来に留学する」、という明確な目標を持ち、日々の努力を惜しまない人、学年、年齢にかかわらず、自ら率先してリーダーシップをとり、他者との共同作業を楽しめる人、を求めます。より集中的な英語学習環境を整えるために、ACE科目、留学準備講座、あるいはトップスクールセミナー等を他にもできれば2コマ以上、最低でも各学期1コマは履修してください。出来る限り春学期、秋学期続けてこの演習を履修してください。すでに留学経験のある方も大歓迎です。

学部の留学生サポーター制度（例年4月中旬に募集）や海外留学プログラムにも、積極的に参加してください。

仲間と切磋琢磨しお互いをサポートしながら自主的にACE/英語関連のイベントを計画、実行し、かつそのクリエイティブな過程や、このゼミ、そして卒業生を含むACEのコミュニティー全体の中で濃厚な人間関係を育みたい人の受講を歓迎します！このような経験は、将来の留学、グローバルなプロジェクト等を推し進める際にもきっと役立っていくことでしょう。イベントの多くは週末になるので、その準備も含め、スケジュールの調整が必要になりますので注意してください。また、木曜6限前半の時間帯にも準備作業等が入ることが多いので、できる限りあけておいてください。週末等のイベント、授業時間外の準備作業に支障のないスケジュール管理ができることが必須です。

成績評価方法：

演習への貢献度: 40%（特別な事情を除き、半期3回以上欠席または大幅な遅刻や早退をした場合は原則として単位は認定されない。全てのゼミイベント等への参加を含む。）

Posts, reports and other written assignments: 30%（すべての課題を完了/提出しなければ単位は認定されない。）

Presentations and other oral outputs: 30%

*当該授業の修得単位は、ACE修了要件の上限2単位まで参入することができる。

教員の研究分野…英語教授法。脳科学、ポジティブ心理学等を基礎としたウェルビーイングの知見を生かした語学学習・教授法。プレゼンテーション指導法。演劇、多読、多視聴による自律的外国語学習とその支援。

募集人員…8名程度

募集方法…TOEIC 520点以上、ACE科目、留学準備講座、あるいはトップスクールセミナーに秋学期に少なくとも1コマ履修登録していることが最低条件です。初回授業にTOEIC、TOEFL、IELTS、英検等のスコア、ACE履修申し込みのエントリーシートのコピー、そして個人の時間割（その時点のもの）を持参し、ファイル、あるいは写メなどで提出できるように用意しておいてください。このシラバスの内容を熟読して初回授業に臨んでください。英語と日本語の面接等を経て、受講者を決定します。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：帝国論から中国と中国周辺部を考える

授業内容・授業到達目標：

日本は島国であり、また西洋の近代国家をモデルとして来たため、広い地域と多民族を有する帝国様式の社会（中国）について、実は理解が足りないところがあります。さらに広い意味での中華圏だった朝鮮、ベトナム、日本、モンゴルなど中国の周辺部においても、漢字が使われていたことなど、明らかに強く中国の影響を受けてきたわけですが、その歴史的意味が曖昧になりつつあります（ちなみに文化圏の発想では、台湾は中国に入ります）。本演習は、中国とその周辺部（日本、朝鮮、モンゴル、ベトナム）の歴史とその文化的特色について、理論的なパースペクティブからアプローチすることになります。

授業の到達目標：

本演習では、中国が帝国の歴史を歩んだことを理解するために、国家や社会にかかわる思想家では、ヘーゲルやマルクスなどの歴史観、地理観などにも触れ、初歩的な理解を深めます。その上で、中国の帝国としての歴史、中国の周辺部にあった国々が生成して来る歴史の特色を学んでいくことになります。個々の事象を網羅的に学ぶというよりも、それらを一挙に構造として捉えることになります。本演習を通じて、中国とその周辺部の歴史的生成のあり様とその文化の特色に対する理解がより深まることになるでしょう。また最後には、中国や朝鮮、モンゴルとの比較において、日本がどういう国であるのかも、自ずと明らかになるでしょう

教科書・使用教材：

柄谷行人『帝国の構造』（青土社 二〇一四年）

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

中国語を履修している方。とにかく読書が好きな方。

準備学習の内容：

教材を深く読み込むためにレジュメ（要約文）を作成すること。

成績評価方法：

授業に対する積極的な参加、積極的な発言（質疑応答）

教員の研究分野…中国、台湾、朝鮮半島、日本、沖縄の歴史と思想

募集人員…5名

募集方法…初回の時に、東アジアの歴史と思想にかかわる簡単なテストをします。

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：社会科学スタディーズ入門

授業内容・授業到達目標：

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に政治学に関するテーマを扱い、現在、政治の世界で問題になっている話題を取り上げます。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつかの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組めます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、政治学に関する基礎的な文献を読み、レジュメを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

教科書・使用教材：

授業の際に指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

熱意をもって取り組んでください。出席と課題提出は必須です。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…日本政治思想史、江戸時代の政治思想、言語研究と政治思想の関係
募集人員…10～15名程度
募集方法…希望者多数の場合は抽選
政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：社会科学スタディーズ入門

授業内容・授業到達目標：

この演習は、大学で社会科学を学ぶ際に必要な、読む力・書く力・話す力の基礎を身につけることを目標とします。演習テーマが同一のものがいくつかあるので、内容を見て、自分に適していると思われるものを履修してください。この演習では、主に政治学に関するテーマを扱い、政治的な問題について歴史的・思想的観点から検討します。

大学で学ぶ学問では、未解決の問題、いくつもの答えがありうる問題、答えのない問題に取り組めます。したがって、受動的に正解を教わるだけでなく、自ら積極的に学ぶ姿勢が求められます。そのためには、まず、学術的な文献を「読む力」が必要です。また、問いを立て、調査し、考え、導き出した見解を、レポートや論文にまとめる「書く力」が必要です。さらに、口頭で報告し、意見を交換し、討論するための「話す力」も必要です。

毎回の演習では、政治学に関する基礎的な文献を読み、レジюмеを作成して報告し、討論を行います。また、各自でテーマを設定して文献を調査し、レポートにまとめます。文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方、調査の仕方などについて教員が丁寧に指導するとともに、グループワークを行って学生同士で教えあい学びあいます。こうした活動は、3・4年次の専門演習でより高度な学問に取り組み、卒業論文を作成するための基礎となるでしょう。

教科書・使用教材：

授業の際に指示します。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

熱意をもって取り組んでください。出席と課題提出は必須です。

成績評価方法：

演習への参加・貢献度50% 課題への取り組み50%

教員の研究分野…日本政治思想史、江戸時代の政治思想、言語研究と政治思想の関係
募集人員…10～15名程度
募集方法…希望者多数の場合は抽選
政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

演習テーマ：中東の戦争と平和を考える

授業内容・授業到達目標：

中東といえば「紛争」や「戦争」と想像する人は多いだろう。日本に住む私たちにとって、中東は、メディアを通して映像や言説で広められた戦争のイメージに埋め込まれている、といってもよいかもしれない。「こわい」「わからない」「近づきにくい」という印象を喚起しがちなそれらの「戦争している中東」のイメージの由来や組成をさまざまな角度から解きほぐすことがこの授業の中心的な課題である。

この演習では、宗教紛争についての誤解、欧米のマスメディアやポップカルチャーにある歪曲、国際的な力学、「民族問題」など、西アジアを不安定化させる諸要因とされている諸事象について調べ、考察し、演習としての集合知をつちかいたい。

また、不安定要因とされていることが、むしろ古代から発展してきた豊かな都市文化を反映していること、西アジアで暮らす人々の存外明るく楽しい日常生活にも目配りをして、人間性を中心にすえて中東を理解し、そのうえで自分たちにどのようなアプローチができるかを一緒に話し合い、編み出すことができればと願っている。

毎週の演習時間外でも、学内外で開催されるシンポジウムやイベントを紹介し、それらへの参加を通して理解を深めることも試みたい。

教科書・使用教材：

特に指定はしない。授業の中で参考文献を紹介する。

受講希望者に対する希望・準備学習の内容：

文化論概論を受講していることが望ましいが、していなくても参加可能。大学受験レベルの世界史あるいは世界地理の知識があることがのぞましい。

演習は、参加学生の発表を中心に授業を組み立てるので、自分(たち)に割り当てられたトピックに主体的に取り組むこと、授業時間外でも必要な情報をサーチしたり、機動的に動いてレポートしたりすることが必要になる。

成績評価方法：

演習での発表などのパフォーマンス50%、パフォーマンスを受けてのコメントや議論への貢献度50%

教員の研究分野…文化論、西アジア地域研究

募集人員…10名程度

募集方法…初回のゼミに来てもらい、真摯にゼミに参加する意思を確認する

政経教養セミナー投稿 2022年度・2023年度 無

